

# 3

## システム機能の説明

本章では、システムの機能について説明しています。

- 1 日本語入力システム MS-IME について ..... 74
- 2 インジケータ領域について ..... 77
- 3 ディスプレイ解像度の変更 ..... 78
- 4 ドライバのインストールについて ..... 80

# ① 日本語入力システム MS-IME について

## ① MS-IME ツールバーの表示

本製品には日本語入力システム MS-IME が標準装備されています。  
MS-IME のバージョンはお使いになるモデルによって異なります。  
MS-IME2002 : すべてのシステムの Office XP インストールモデル  
MS-IME2000 : Windows 2000 モデル  
MS-IME98 : Windows 98 モデル

MS-IME のツールバーは次のとおりです。

● MS-IME2002 ツールバー



● MS-IME2000 / MS-IME98 ツールバー



ツールバーの各ボタンで入力文字種を選択や MS-IME の設定、ヘルプの起動などが行えます。

ツールバーが表示されていない場合は、次の手順で表示することができます。

### ● MS-IME2002 の場合

- ① タスクバーの日本語アイコン をクリックする  
メニューが表示されます。
- ② [言語バーの表示] をクリックする  
MS-IME のツールバーが表示されます。

### ● MS-IME2000 / MS-IME98 の場合

- ① タスクバーの日本語入力インジケータ (MS-IME 日本語入力システムアイコン) をクリックする  
メニューが表示されます。
- ② [ツールバーを表示] をクリックする  
MS-IME のツールバーが表示されます。

ツールバーが表示されている状態で上記メニューの [ツールバーを表示] をもう 1 度クリックすると、MS-IME のツールバーは画面から消えます。

## ② 入力文字種を選択

入力する文字種を選択は、次のように行います。まず、MS-IMEのツールバーの[入力モード] ボタンをクリックすると文字の種類を選択するメニューが表示されます。ここでは、[ひらがな] にマウスポインタを合わせ、クリックします。ツールバーの[入力モード] ボタンは、[あ] に変わり、全角ひらがな入力が可能になります。

### ● MS-IME2002 の場合



### ● MS-IME2000 / MS-IME98 の場合



### 3 MS-IME ツールバーの使用方法

MS-IME の詳しい使用方法は、次の手順でヘルプ画面を表示し、知りたい項目をクリックしてお読みください。

#### ● MS-IME2002 の場合

##### 方法 1

- ① ツールバーの [ヘルプ] ボタンをクリックする



- ② [Microsoft (R) IME スタンダード 2002] - [目次とキーワード] をクリックする  
ヘルプ画面が表示されます。

##### 方法 2

- ① ツールバーの [ツール] ボタンをクリックする



- ② [ヘルプ] - [目次とキーワード] をクリックする  
ヘルプ画面が表示されます。

##### 方法 3

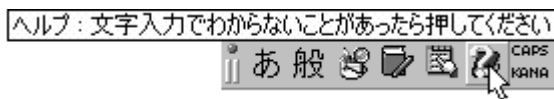
- ① ツールバーの [入力方式] ボタンをクリックする



- ② [ヘルプ] - [目次とキーワード] をクリックする  
ヘルプ画面が表示されます。

#### ● MS-IME2000 / MS-IME98 の場合

- ① ツールバーの [ヘルプ] ボタンをクリックする





- ② [目次とキーワード] をクリックする  
ヘルプ画面が表示されます。


# ② インジケータ領域について

ここでは、タスクバーインジケータ領域と日付と時刻の設定について簡単に説明します。


## ① 日本語入力インジケータ

MS-IME2000 / MS-IME98 の場合、タスクバーに日本語入力インジケータ (  ) が表示されます。

日本語入力インジケータ  をクリックすると、MS-IME ツールバーの表示 / 非表示、日本語入力オン / オフの切り替えを行うことができます。

 使用方法について ⇨ 「本章 1 日本語入力システム MS-IME について」


## ② 音量インジケータ


音量インジケータ  をクリックすると、内蔵スピーカ、または本装置に接続された外部スピーカの音量を設定することができます。なお、ダブルクリックすると [マスタ音量] (Windows 98 モデル) または [ボリュームコントロール] (Windows 2000 モデル) の画面が表示されて、より詳細な設定ができます。

## ③ 日付と時刻の設定

タスクバー右端の時刻の部分ダブルクリックすると、日付と時刻の設定を行うことができます。

## ④ 画面インジケータ (Windows 98 モデル)

画面インジケータ  をクリックすると、ディスプレイの解像度を変更することができます。画面インジケータは、Windows 2000 モデルでは、表示されません。なお、ダブルクリックすると「画面のプロパティ」の画面が表示されて、より詳細な設定を行うことができます。

 「画面のプロパティ」でディスプレイ解像度を変更する

⇨ 「本章 3 ディスプレイ解像度の変更」

# ③ ディスプレイ解像度の変更

ここでは、ディスプレイ解像度や表示できる色数を変更する方法を説明します。

## ● Windows 98 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする


[コントロールパネル] 画面が表示されます。

- 2 [画面] アイコンをダブルクリックする

画面のプロパティが表示されます。



メモ

・タスクバーの画面インジケータ  をダブルクリックしても、同様の画面が表示されます。



(表示例)

- 3 [設定] タブをクリックする

[色]、[画面の領域] の設定を変更することで、ディスプレイの解像度、色数を変更できます。



(表示例)

- 4 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックする

設定を保存して、[画面のプロパティ] 画面を閉じます。

## Windows 2000 の場合

### 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする

[コントロールパネル] 画面が表示されます。

### 2 [画面] アイコンをダブルクリックする

画面のプロパティが表示されます。



(表示例)

### 3 [設定] タブをクリックする

[画面の色] または [画面の領域] の設定を変更することで、ディスプレイの解像度、色数を変更できます。



(表示例)

### 4 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックする

設定を保存して、[画面のプロパティ] 画面を閉じます。

# 4 ドライバのインストールについて

ドライバのインストールについては、各ドライバのマニュアルに従ってインストールしてください。

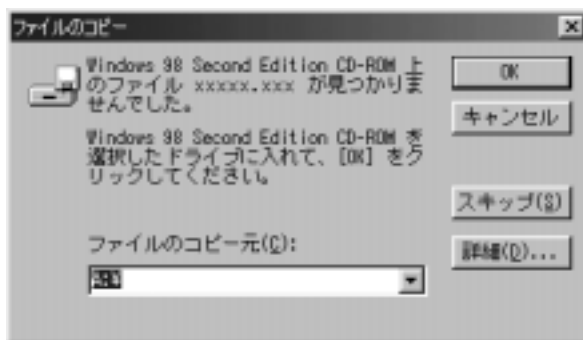
## Windows 98 の場合

フロッピーディスクからドライバのインストールを行なっている場合、[ディスクの挿入] 画面が表示される場合があります。



このような場合は、次の手順でインストールを継続してください。

- 1 [ディスクの挿入] 画面の [OK] ボタンをクリックする  
[ファイルのコピー] 画面が表示されます。



(表示例)

- 2 ファイルのコピー元を入力する

[ファイルのコピー元(C):] に「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」と入力します。



- 3 [OK] ボタンをクリックする

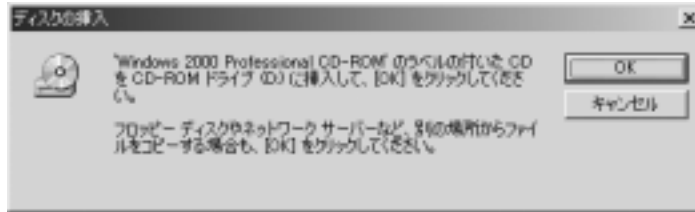
メッセージに従ってインストールを継続してください。

以上の操作を行なっても正しくインストールできない場合は、ドライバの提供元にお問い合わせください。



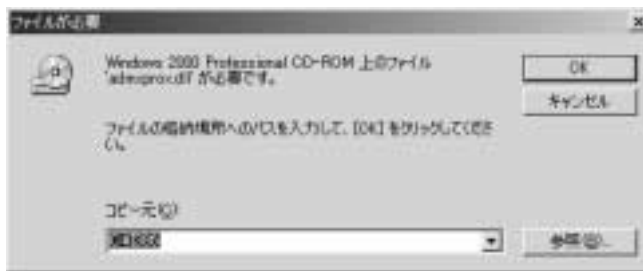
## Windows 2000 の場合

Windows コンポーネントの追加や、ドライバのインストールを行なっている場合、[ディスクの挿入] 画面が表示される場合があります。



このような場合は次の手順でインストールを継続してください。

- 1 [ディスクの挿入] 画面の [OK] ボタンをクリックする  
[ファイルが必要] 画面が表示されます。



- 2 コピー元を入力する  
コピー元に、[C:¥i386] と入力します。
- 3 [OK] ボタンをクリックする  
メッセージに従ってインストールを継続してください。



# 4

## 機器の拡張について

本章ではパソコン本体にオプションカードやメモリカードなどを取り付ける方法について説明します。  
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

<b>1</b>	作業を始める前に .....	84
<b>2</b>	LAN の接続 .....	86
<b>3</b>	プリンタの接続 .....	92
<b>4</b>	PC カード .....	94
<b>5</b>	マイク（別売り）の接続 .....	97
<b>6</b>	外部スピーカ（別売り）の接続 .....	98
<b>7</b>	本体カバーの取りはずし／取り付け .....	99
<b>8</b>	オプションカード .....	102
<b>9</b>	増設メモリカード .....	108
<b>10</b>	内蔵バッテリーの交換 .....	114

# 1 作業を始める前に

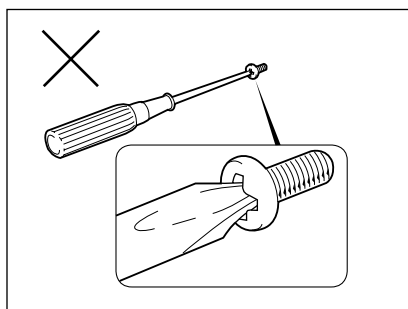
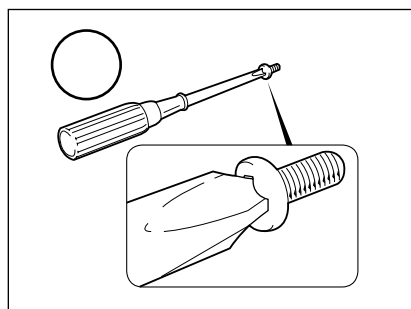


お願い

・システムの拡張についてはパソコンの内部について、ある程度の知識や経験のある方（以前にメモリ増設、オプションカードの取り付けなどを行われた方）を対象としております。システム拡張の経験のない方、難しいと思われる方はお買いあげの販売店、または同梱の『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションにご相談ください（作業をご依頼の場合は有償で行います）。

## 作業前の注意事項

- 湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業を行なってください。
- 温度範囲は 10 ~ 35℃、湿度範囲は 20 ~ 80%Rh ですが、結露するような急激な温度変化を与えないでください。
- 必ず周辺機器に付属の説明書をお読みになったうえで、取り付けを行なってください。
- 注意事項は周辺機器によって異なります。各項目をよく読んでから作業を行なってください。
- 各手順は、必ず正しい順序で行うようにしてください。
- 取り付け作業時にプリント基板の角などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。
- 静電気の発生しやすい環境（じゅうたんの上等など）で作業しないでください。静電気を帯びることにより電子部品が故障することがあります。
- 必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから取り付け、取りはずし作業を行なってください。
- 作業上必要な場所以外には、手を触れないでください。  
内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。
- 取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。また、機器内部に落とさないでください。
- ネジは数種類あります。取りはずしたネジは必ず元のネジ穴に取り付けてください。
- 異常や故障が発生したら、『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションまたは、お買いあげの販売店にご相談ください。
- オプションカードには鋭い突起があります。手を傷つけないようにしてください。
- コネクタの接続、オプションカードの取り付けなどで、ドライバを使用する場合は、必ずネジにあったものをご使用ください。  
ネジに合わないドライバは、十字穴にすきまができて安定しません。また、無理に使用すると、十字穴をつぶす原因になります。



- 本体へのケーブル接続は、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり曲がったりします。ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジをしめてください。
- 電源コードの接続は、①アース線、②プラグの順に行なってください。取りはずす場合は、①プラグ、②アース線の順に行なってください。



- 注意**
- ・この章で説明されている「7 節 本体カバーの取りはずし/取り付け」以降の作業を行う前に、システムを終了させ、パソコン本体と接続されているすべての周辺機器の電源を切り、その後パソコン本体背面に接続されているすべてのケーブル類を取りはずしてください。パソコン本体を開け、作業を行う前に、電源を切りケーブル類を取りはずしておかないと、作業者のケガや機器の損傷を招くことがあります。
  - ・本体カバーをはずして作業する場合、本体の電源コードを抜いて1分以上たってから作業してください。機器の故障の原因となります。
  - ・本体カバーをはずして作業する場合、内部には鋭利なところがありますので、十分注意してください。なお、作業に際しては手袋をしてください。



お願い

- ・本体カバーを取りはずした状態での操作はしないでください。電源を入れる前には、必ず本体カバーを取り付けてください。

## 作業前の準備

システムの拡張作業で、次のような道具が必要になる場合があります。あらかじめ、ご用意ください。

- ・ + (プラス) ドライバ
- ・ 作業用手袋
- ・ 取りはずしたネジなどを入れる袋

## オプション取り付け時の設定

周辺機器によっては、セットアップでの設定が必要になるものがあります。

☞ 設定について

- ⇒ 「5 章 BIOS セットアップについて」、『各オプションに付属の説明書』

## ② LAN の接続

本装置には、Fast Ethernet LAN (100BASE-TX) Ethernet LAN (10BASE-T) に対応した LAN が内蔵されています。ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN インタフェースをご使用になる際の注意事項および技術的な内容を説明します。

### ① 適正なケーブルの確認

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100M ビット/秒) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

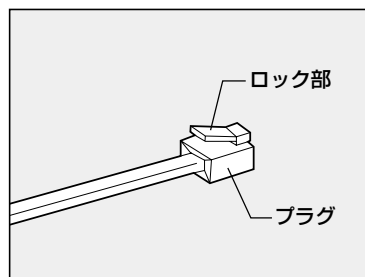
10BASE-T 規格 (10M ビット/秒) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。


### ② LAN ケーブルの接続

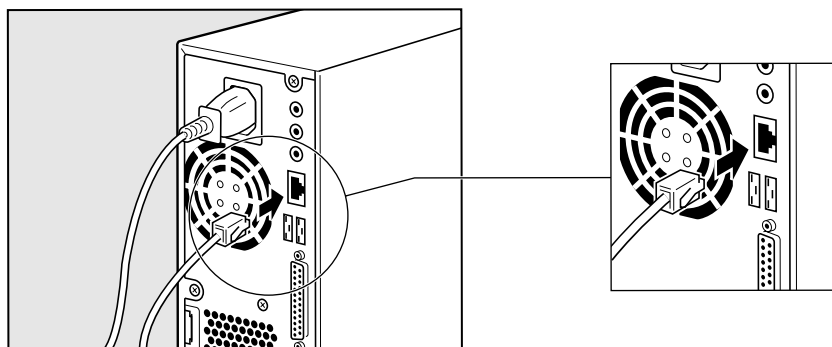


お願い

LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 LAN ケーブルのプラグを本体背面の LAN コネクタ  に差し込む  
パチンと音がするまで差し込んでください。



- 6 LAN ケーブルのもう一方のプラグを HUB (ハブ) のコネクタに差し込む  
HUB (ハブ) の接続先やネットワークの設定は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

## 3 テクニカル情報

### ● Fast Ethernet ケーブル

#### 100BASE-TX

100BASE-TX では、2組のツイストペア・イーサネット（TPE）ケーブルによる 100Mbps の転送をサポートしており、カテゴリ 5（CAT5）のケーブルを使用します。100BASE-TX のセグメント長は、最大 100 メートルに制限されています。

### ● Fast Ethernet HUB（ハブ）

さまざまな Fast Ethernet 仕様をサポートする HUB が次々に発表されています。これらの HUB は大きく分けて、シェアード HUB とスイッチング HUB の 2 つのタイプがあります。EQUIUM シリーズの LAN インタフェースでは、どちらのタイプの HUB でも使用できます。

#### シェアード HUB（ハブ）

シェアード HUB を使用しているネットワーク環境では、全ポートが固定の帯域幅（データ容量）を共有しています。100Mbps のシェアード HUB の場合、ハブ上の全ノードが 100Mbps の帯域幅を共有しなければなりません。ハブに新たなステーションが追加されると、個々のステーションが使用できる有効帯域幅は減少します。シェアード HUB は、全車が 1 レーンを共有する単一レーンの高速道路にたとえられます。高速道路上に車が増えると、トラフィックは混雑し、各車の移動に要する時間は増大します。

シェアード HUB の場合、全ノードが同一の転送速度（10Mbps または 100Mbps）で動作しなければなりません。Fast Ethernet HUB の場合、10BASE-T リピータの 10 倍の 100Mbps の帯域幅を提供します。

#### スイッチング HUB（ハブ）

スイッチング HUB を使用しているネットワーク環境では、各ポートに固定の専用帯域幅が割り当てられます。高速道路の例で言うと、各車が他の車と共有しない独自のレーンを持つことになります。

スイッチング HUB では、データは送信先ステーションにつながるポートにだけ送信されます。ネットワークの帯域幅は全ステーションに共有されているのではなく、HUB に接続された個々のステーションがそれぞれのネットワークの全帯域幅を使用することができます。このためスイッチングハブではネットワークで使用できる帯域幅の合計が効果的に増大するので、パフォーマンスが大きく向上します。

スイッチング HUB では、一部のノードを 10Mbps で使用し、他のノードを 100Mbps で使用できるものもあります。スイッチング HUB は洗練された設計により、このようなパフォーマンス上の利点を持ちますが、1 接続あたりの費用は一般にシェアード HUB より高価になります。

## 4 Windows 98 のネットワーク設定について

本装置をネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。本装置を接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。ご購入時には既定値 (Default) が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows 起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。



**注意** ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows セットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

### ● ネットワークの設定

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする
- 3 [ネットワークの設定] タブをクリックし、変更を行う

コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。



(表示例)



ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

- ネットワーククライアント ..... ほかのコンピュータに接続する機能です。
- プロトコル ..... コンピュータが通信するための言語です。通信する複数のコンピュータどうしは、同じプロトコルを使用する必要があります。
- アダプタ ..... コンピュータを物理的に接続するハードウェアデバイスです。
- サービス ..... このコンピュータのファイルやプリンタなどのリソースを、ほかのコンピュータから使えるようにします。

#### 4 【識別情報】 タブをクリックし、コンピュータ名、ワークグループをネットワーク管理者の指示に従い、設定する



(表示例)



#### 注意

- ・コンピュータ名とワークグループは必ず既定値 (Default、Default\_Wg) の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続しますと、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。



## 5 [アクセスの制御] タブをクリックし、変更を行う



ネットワーク管理者の指示に従い、共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

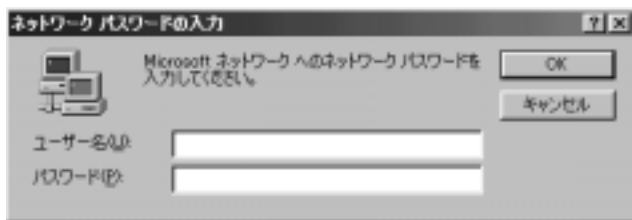
## 6 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

### ● 起動時のパスワードの入力

#### 1 パソコンの電源を入れる

#### 2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する

ここで表示される画面は、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど）。ここでは、次の画面を例にあげていますが、他の画面の場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



メモ

・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

## 5 Windows 2000 のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



**注意** ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

- 1 Administrator 権限でログオンする
- 2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックする
- 4 [ローカルエリア接続] アイコンにマウスのポインタを合わせて右クリックする
- 5 プロパティを選択する
- 6 ネットワーク接続の設定を行う

セットアップ時に設定した構成になっています。  
本製品の標準設定の場合、次のようになっています。

アダプタ : Intel(R) PRO/100 VE Network Connection  
クライアント : Microsoft ネットワーク用クライアント  
サービス : Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有  
プロトコル : インターネットプロトコル (TCP/IP)

### ● ネットワーク上でのコンピュータ識別

- 1 Administrator 権限でログオンする
- 2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [システム] アイコンをダブルクリックする
- 4 [ネットワーク ID] タブを選択する
- 5 ネットワーク ID とプロパティの設定を行う

コンピュータ名、ドメイン/ワークグループ名はセットアップ時に設定した構成になっています。

変更する場合はここで再設定してください。

# 3 プリンタの接続

## 1 プリンタの接続

### ● ネットワーク接続でプリンタを接続する


ネットワーク上のプリンタを使用する場合の設定については、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

### ● 本体にプリンタを接続する

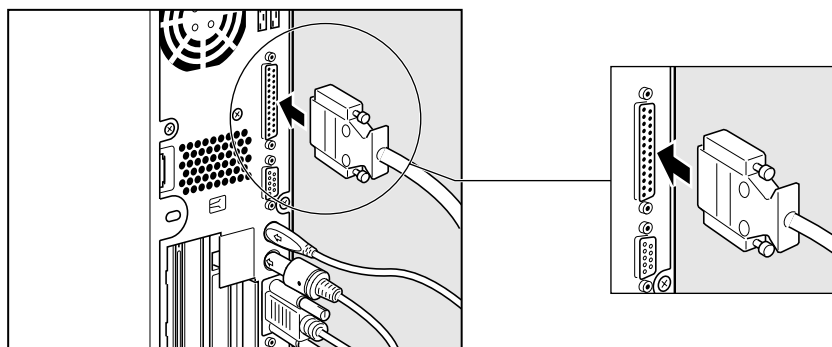
パラレルコネクタにプリンタを接続して使用することができます。  
プリンタを使用するには、ドライバのインストールが必要です。詳しくは、「本節 2 プリンタ設定について」および『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。



・プリンタの接続はプリンタによって異なります。詳しくはプリンタに付属の説明書をご覧ください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 プリンタケーブルを本体背面のパラレルコネクタ  に差し込む

コネクタの形状に合わせてしっかりと奥まで差し込んでください。また、プリンタケーブルに固定用ネジがあるときは手またはドライバなどでしっかりと回して固定してください。



- 6 もう一方のプリンタケーブルをプリンタ側コネクタに差し込む

コネクタの形状に合わせてしっかりと奥まで差し込んでください。また、プリンタ側のコネクタに金具がついている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。

## ② プリンタ設定について

プリンタを使用するには、ドライバのインストールが必要です。

Windows が標準でドライバを用意していないプリンタの場合、プリンタの製造元が提供するフロッピーディスクやCD-ROMなどのインストールディスクが必要です。

詳しくは、『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。

### 1 [スタート] - [設定] - [プリンタ] をクリックする

[プリンタ] 画面が表示されます。

### 2 [プリンタの追加] をダブルクリックする

ウィザードが起動します。画面に表示されるメッセージに従って操作してください。

テストページを印刷する場合は、印刷する前に、プリンタの電源が入っていること、および印刷の準備ができていることを確認してください。

# 4 PC カード

本製品には、PC Card Standard 準拠の TYPE I / II 対応 (Card Bus 対応含む) PC カード (別売り) を取り付けることができます。

## ● PC カードを使用する前に

- 使用できる PC カードのタイプは、TYPE I / II です。  
PC カードの例を次にあげます。
  - ・ モデムカード
  - ・ SCSI アダプタカード
  - ・ スマートメディアアダプタカード
  - ・ フラッシュメモリカード
- ☞ 詳細について ⇨ 『PC カードに付属の説明書』
- PC Card Standard に準拠していない PC カードは使用できません。故障や不具合が発生するおそれがあります。
- 本装置は ZV ポートには対応していません。
- PC カードを使用しないときは、PC カードスロットにダミーカードを差し込んでおいてください。何も挿入されていないと、中にゴミやほこりが入り、故障の原因となることがあります。
- PC カードの裏面にはシールを貼らないでください。シールが貼られていると、カードの取り付けや取りはずしが正常にできない場合があります。また、故障の原因となることがあります。



- 注意**
- ・ ホットインサクションに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。  
電源を入れたまま作業を行うと、PC カードが故障するおそれがあります。
  - ・ PC カードを使用中は、省電力機能を使用しないでください。スタンバイモード／休止状態への移行、通常モードへの復帰が正常に行えない場合があります。
  - ・ システム起動時に PC カードスロットに PC カードを挿入している場合、PC カードを認識しなかったり、起動に時間がかかることがあります。PC カードを認識しない場合は、PC カードのイジェクトスイッチを押し、PC カードを取り出した後、もう 1 度挿入し直してください。
  - ・ スタンバイモード／休止状態の時に PC カードの抜き差しを行わないでください。スタンバイモード／休止状態からの復帰後に PC カードを正常に認識しない場合があります。
  - ・ PC カードを取りはずす際は、PC カードを使用停止状態にしてください。  
使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。



お願い



メモ

- ・ 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- ・ 市販されている PC カードには、自己発熱の大きいものがあります。このようなカードを長時間動作させていると、自己発熱の影響により、カードの動作が不安定になる場合があります。
- ・ **ホットインサクション**  
パソコン本体の電源を入れたままで、PC カードの取り付け／取りはずしをすることをいいます。ただし、PC カードによってはこの機能に対応していない場合があります。

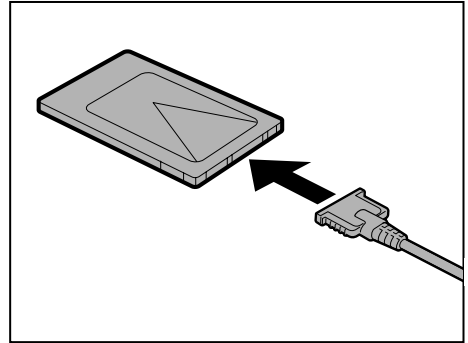
## ● 取り付け

**1** ホットインサージョンに対応していないPCカードを取り付ける場合は、パソコン本体の電源を切る

**2** PCカードにケーブルを付ける

モデムカードなど、ケーブルを接続する必要があるカードの場合は、この作業を行なってください。

☞ 詳細について ⇨ 『PCカードに付属の説明書』



(接続例)



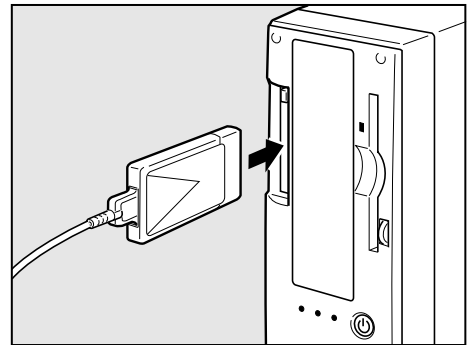
お願い

・ケーブルを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

**3** 縦置きの場合は、PCカードの上面（シールが貼られている面）を右側に向け、PCカードを挿入する

横置きの場合は、PCカードの上面を上側に向けて挿入してください。PCカードを挿入するときは、本体の正面からまっすぐ挿入してください。また、カードを確実に接続するために、無理な力を加えずに静かに押しってください。

確実に奥まで差し込まれていない場合は、PCカードが使用できない、またはPCカードが壊れるおそれがあります。



(接続例)

カードが十分に押し込まれたら、イジェクトボタンが出てきます。

☞ カードの接続および環境の設定方法 ⇨ 『PCカードに付属の説明書』

## ● 取りはずし

- !** 注意 ・PCカードを取りはずす際は、PCカードを使用停止状態にしてください。  
使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。




お願い


・PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してから取りはずしを行なってください。

### 1 PCカードの使用を停止する

< Windows 98 の場合 >

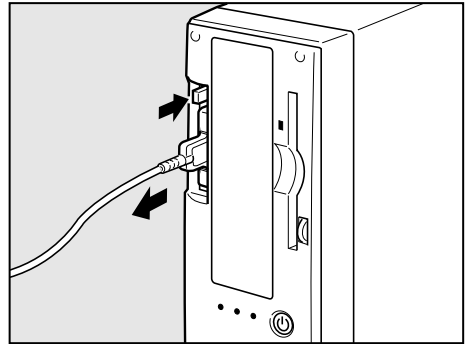
- ① タスクバーにある [PCカード] アイコン (  ) をダブルクリックする
- ② 表示される画面で、停止するPCカードを選択し、[停止] ボタンをクリックする
- ③ 「安全に取りはずせます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

< Windows 2000 の場合 >

- ① タスクバーにある [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン (  ) をダブルクリックする
- ② 表示される画面で、停止するPCカードを選択し、[停止] ボタンをクリックする
- ③ 表示される画面で、停止するPCカードを確認し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 「安全に取り外すことができます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

### 2 イジェクトボタンを押す

カードが少し出てきます。



(接続例)

### 3 PCカードをしっかりとつかみ、引き抜く


PCカードにケーブルなどが接続されているPCカードを引き抜くときは、ケーブルなどを持って引き抜かないでください。PCカードのコネクタ部やケーブルが破損するおそれがあります。

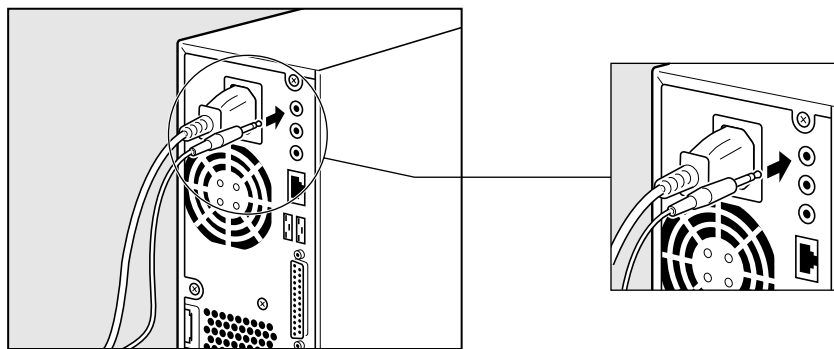
- !** 注意 ・PCカードは熱を帯びている場合があります。  
長時間使用したPCカードを取りはずす際は、PCカードの使用を停止後少し時間をおき、冷めてから取りはずしてください。



## 5 マイク（別売り）の接続

本製品では、マイク（別売り）を接続できます。使用可能なマイクは、コンデンサマイクロホンのミニジャックタイプ（3.5 φ）です。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 マイクのプラグを本体背面のマイク端子  に差し込む  
しっかりと奥まで差し込んでください。

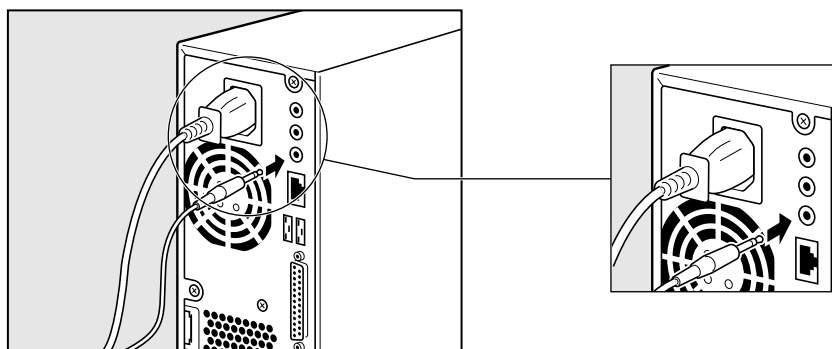


## 6 外部スピーカ（別売り）の接続

本製品には、モノラルのスピーカが内蔵されていますが、別売りの外部スピーカを接続することもできます。

外部スピーカを接続した場合は、内蔵スピーカからはサウンド出力されません。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 外部スピーカのプラグを本体背面のLINE OUT 端子 (●) に差し込む  
しっかりと奥まで差し込んでください。



# 7 本体カバーの取りはずし／取り付け

- 注意** ・オプション装着などのほかは、カバーを開けないでください。故障の原因となる場合があります。  
・本体内の板金、メインボードなどで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。

システムを拡張する場合、さまざまなオプションの取り付け位置は本体内部であるため、本体カバーを取りはずすことが必要です。

先に本体カバーの取りはずしかた、取り付けかたをまとめて説明します。

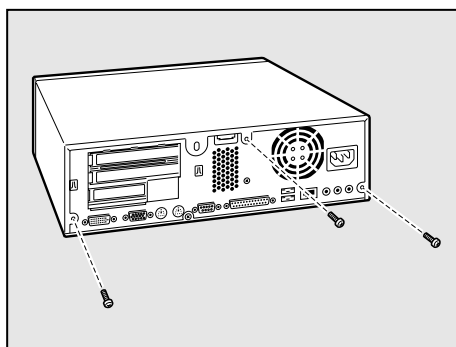
それぞれのオプションの取り付け、取りはずしについては次節より説明します。

## 1 本体カバーの取りはずし

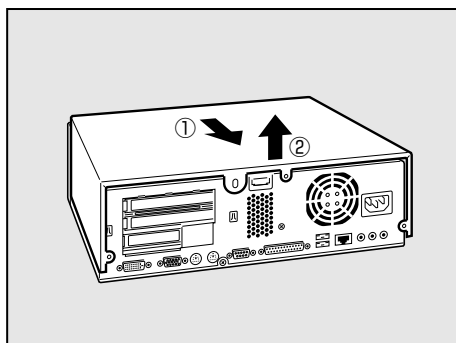
- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずし、本体背面に接続されているすべてのケーブルを取りはずす

- 注意** ・電源を切っただけでは、メインボードは通電状態となっています。通電状態でコネクタの抜き差しを行うと、故障の原因となります。  
必ず電源コードを抜いてから作業を行ってください。

- 5 本体背面のネジ3本をはずす

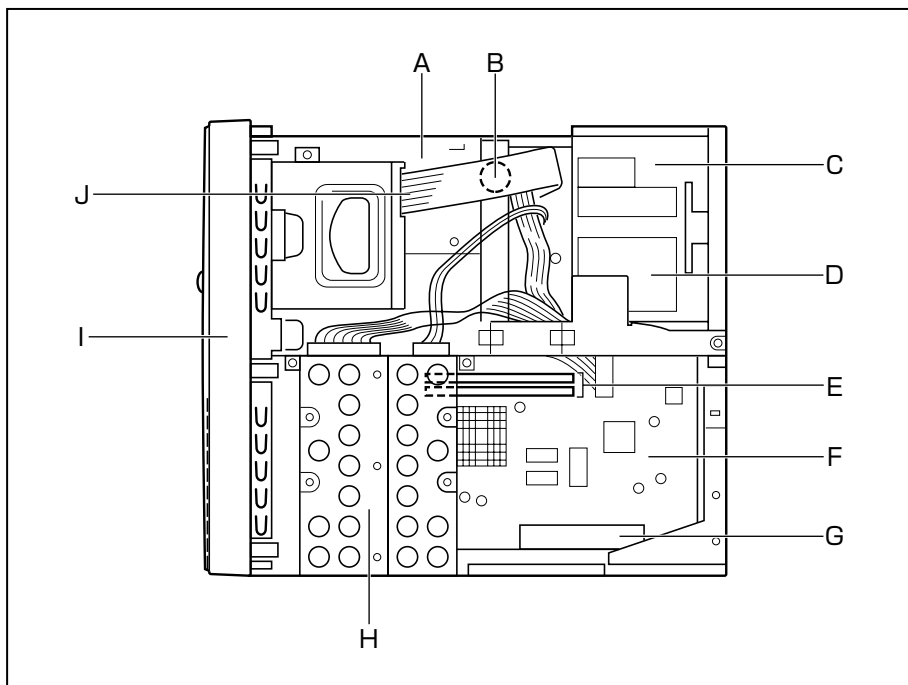


- 6 本体カバーを後方へずらし①、まっすぐ上に持ち上げて取りはずす②



- 注意** ・カバーの取り扱いに注意してください。  
落としたり、ぶついたりして手や足をケガするおそれがあります。

## ② 本体カバーを取りはずしたところ



B, E, G, H, I, Jはユーザ作業エリアです。

A. ファイルスロット

CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブが標準で内蔵

B. バッテリ

C. 電源ユニット

D. 電源警告ラベル

(電源ユニットのカバーは、はずさないでください。内部には高電圧部分があり、感電・火災・故障のおそれがあります。)

E. メモリスロット

F. メインボード

G. 拡張スロット

H. ハードディスクドライブ

I. フロントベゼル

J. FDD コネクタ

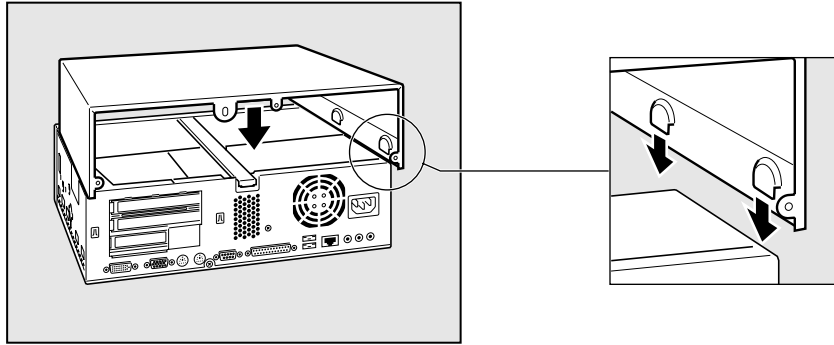


**注意** ・ユーザ作業エリア以外は分解しないでください。

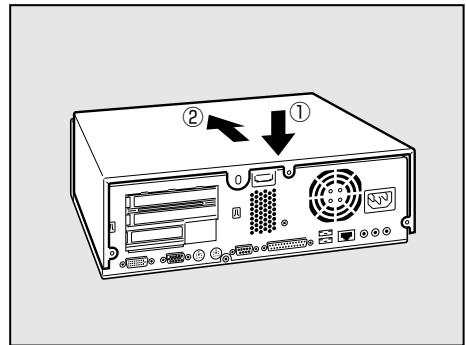
高電圧部による感電のおそれがありますので、絶対に触れないでください。

### 3 本体カバーの取り付け

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 工具類や部品類を本体内部に残していないこと、部品類の取り付けが正しく、しっかり行われていることを確認する
- 3 本体カバーを、本体前面から 2cm 程度離れた位置に、カバー両側のツメと本体を合わせてのせる  
合わせにくいときは、カバーの両側を開くようにしてください。

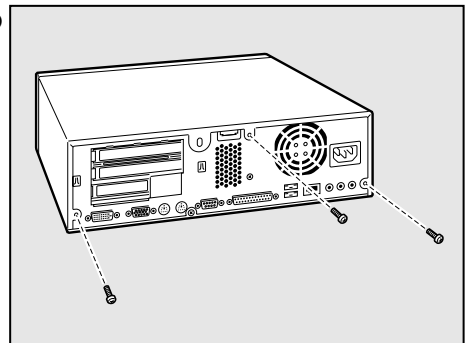


- 4 本体カバーの前側上面をおさえながら  
①、前方にスライドさせる②



**!** 注意 ・ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。

- 5 本体背面にネジ3本を取り付け、固定する



# 8 オプションカード

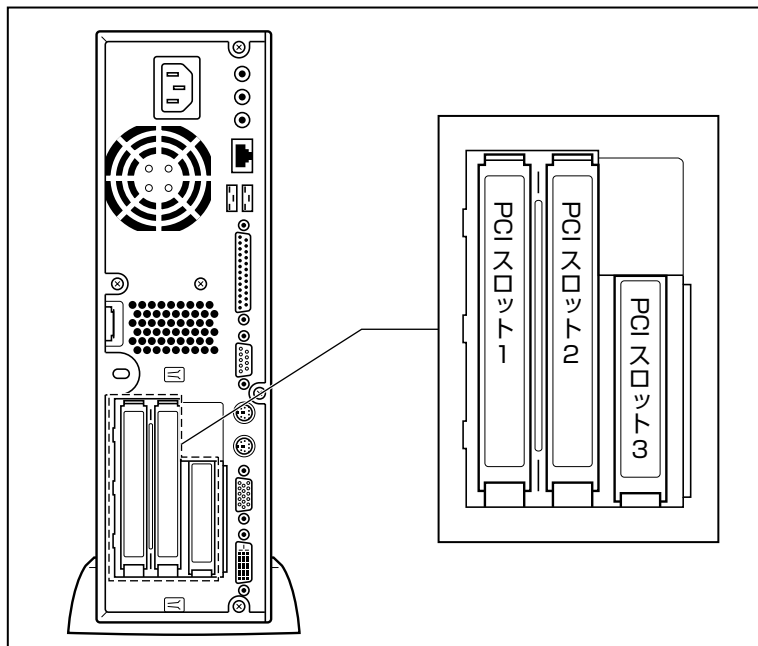


・PC97 規格に対応していないカードは正常に動作しない場合があります。

お願い

## 1 拡張スロットの位置

本体にはオプションカード用の拡張スロットが合計 3 個用意されています。



**注意** ・オプションカードの取り付けに際しては、拡張スロットの電流容量を超えないように注意してください。

🔊 電流容量について

⇒ 「付録 2-8- PCI スロットの電流容量」、『各オプションカードに付属の説明書』



お願い

・オプションカードは、特に静電気に対して敏感で、その取り扱いには注意が必要です。カードを持つときは、カードの縁を持つようにして、部品や金メッキ部分には触らないようにしてください。保護袋や本体からカードを抜き出したときには、水平で、接地された、静電気のないところに、部品面を上にして置くようにしてください。カードは、どんな面の上でも、滑らせて移動させないでください。

## ② オプションカードの外形図

各スロット用のカードの種類と本体に装着可能なカードの外形図を示します。

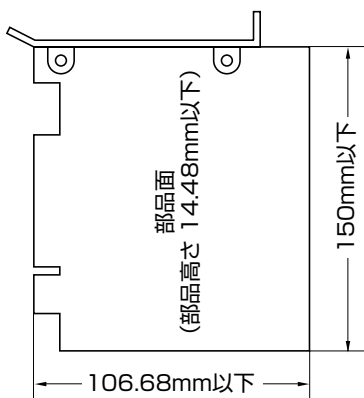


**注意** ・接触による事故防止のため高さ制限を守ったカードを使用してください。



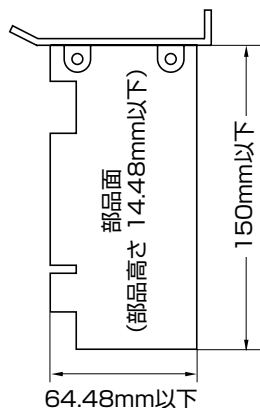
・本体内に装着できる PCI タイプカードは、次に示すサイズ以下のものです。このサイズを超える大きさのカードは取り付けないでください。故障や不具合が発生する場合があります。

### ● スロット 1、2 に装着可能なカード



### ● スロット 3 に装着可能なカード

スロット 3 には、次に示すサイズの Low Profile PCI 規格カードのみ装着できます。



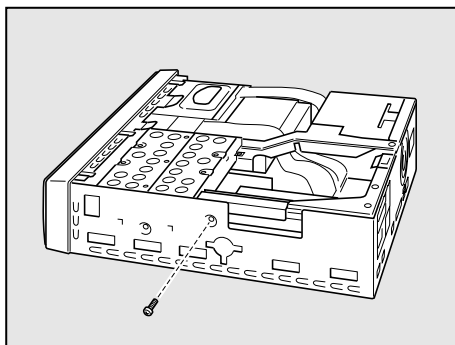
### 3 オプションカードの取り付け



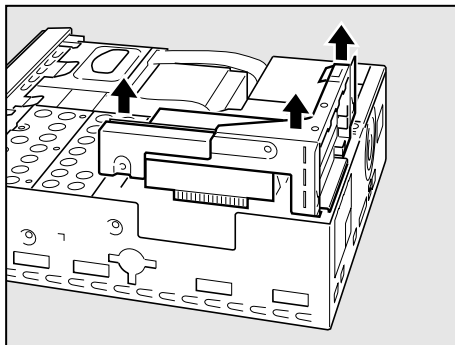
お願い

・この作業を行うとき、メインボードや他のボードの部品を損傷しないように注意してください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 本体カバーを取りはずす  
☞ 「本章 7 本体カバーの取りはずし／取り付け」
- 6 ライザーカードを固定しているネジ 1 本をはずす



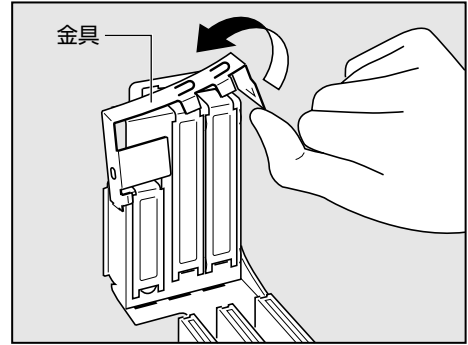
- 7 図のようにライザーカードを真上に引き上げて取りはずす



**注意** ・ライザーカードの下の I/O コネクタの板金には鋭利な部分があり、けがをするおそれがありますので、触れないようにしてください。



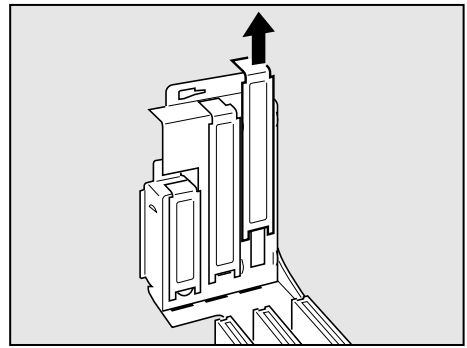
- 8** オプションカードパネルをとめる金具を  
図のように引き上げて取りはずす



**注意** ・金具を取りはずすときは、指を傷つけないように作業用手袋の使用をおすすめします。

- 9** オプションカードパネルを図のようにス  
ライドさせて、取りはずす

取りはずしたオプションカードパネルは、大切に  
保管しておいてください。



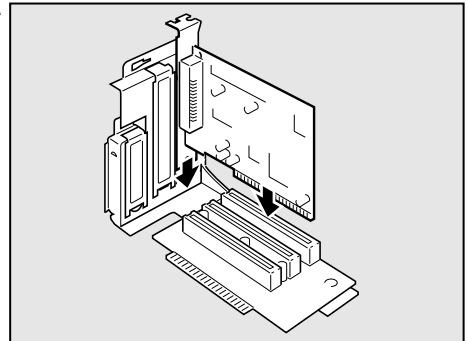
- 10** 保護袋から取り付けるオプションカードを抜き出し、水平で、接地された、  
静電気の無いところに、部品面を上にして置く

保護袋は再度取りはずしたときのために保管しておいてください。

- 11** オプションカードに付属の説明書に従って、カードのジャンパやスイッチの  
設定をする

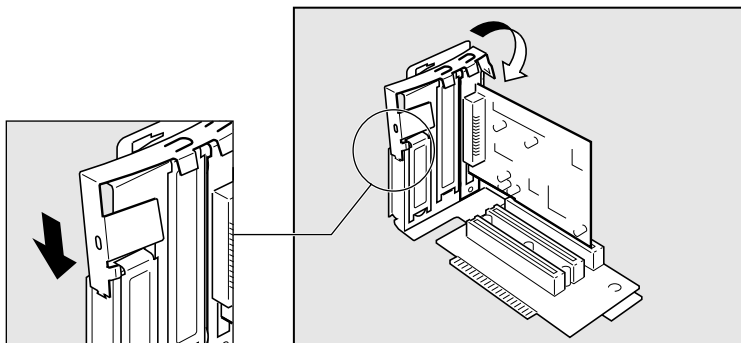
- 12** カードの上の縁、または上の角のところに  
持って、図のようにカードをセットする

オプションカードのエッジ（金メッキ部分）を拡  
張スロットコネクタにしっかり合わせて押し入れ  
ます。



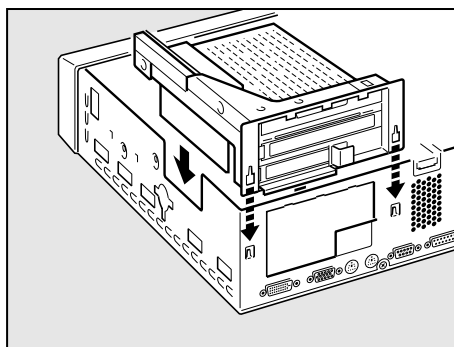
**注意** ・オプションカードには鋭い突起があります。取り付け作業時には、指を傷つけないよ  
うに作業用手袋の使用をおすすめします。

- 13** オプションカードパネルをとめる金具を、左側のツメを合わせてから①、右側のツメを図のように合わせて取り付ける



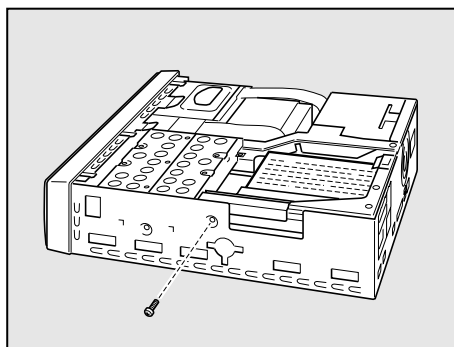
**!** 注意 ・金具を取り付けるときは、指を傷つけないように作業用手袋の使用をおすすめします。

- 14** ライザーカードを、本体背面 2 個所のツメと、ライザーカードスロットの位置に合わせて、本体に取り付ける



**!** 注意 ・ライザーカードの下の I/O コネクタの板金には鋭利な部分があり、けがをするおそれがありますので、触れないようにしてください。

- 15** 手順 6 で取りはずしたネジ 1 本を取り付ける



- 16** 必要があれば取り付けしたオプションカードにケーブル類を接続する

- 17** 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 7 本体カバーの取りはずし／取り付け」

## 4 オプションカードの取りはずし

オプションカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞ 「本節 3 オプションカードの取り付け」

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 本体カバーを取りはずす  
☞ 「本章 7 本体カバーの取りはずし／取り付け」
- 6 オプションカードに接続されているケーブルがあれば、はずす  
再度取り付けるときのために、取りはずしたケーブルは大切に保管しておいてください。
- 7 ライザーカードを固定しているネジ 1 本をはずす
- 8 ライザーカードを真上に引き上げて取りはずす
- 9 オプションカードパネルをとめる金具を取りはずす

**⚠ 注意** ・金具を取りはずすときは、指を傷つけないように作業用手袋の使用をおすすめします。

- 10 オプションカードの縁を持って、カードがライザーカードからはずれるまで引き抜く

**⚠ 注意** ・オプションカードには鋭い突起があります。オプションカードを引き抜くときは指を傷つけないように作業用手袋の使用をおすすめします。

- 11 オプションカードを、静電気対策された保護袋に入れて保管する
- 12 取りはずしたときに保管してあったオプションカードパネルを取り付けて、オプションカードパネルをとめる金具を取り付ける

**⚠ 注意** ・空いたスロットには必ずオプションカードパネルをつけるようにしてください。電磁ノイズと機器の冷却に問題が起きることがあります。  
・金具を取り付けるときは、指を傷つけないように作業用手袋の使用をおすすめします。

- 13 ライザーカードを、本体背面 2 個所のツメと、ライザーカードスロットの位置に合わせ、本体に取り付ける

- 14 手順 7 で取りはずしたネジ 1 本を取り付ける

- 15 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 7 本体カバーの取りはずし／取り付け」

# 9 増設メモリカード



お願い

- ・必ずメモリカードに付属の説明書をお読みになったうえで作業を行なってください。
- ・使用できる増設メモリカードは1枚です。
- ・増設メモリカードの取り付けが難しいと思われる方は、保守サービスでの取り付けをおすすめします。同梱の『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションに作業をご依頼ください（有償です）。

本装置には次のメモリカードが取り付けられます。

増設メモリカード	Pentium IIIモデル	Celeronモデル
64MB DIMMメモリカード	ECCなし* / PC133規格	ECCなし* / PC100規格
128MB DIMMメモリカード		
256MB DIMMメモリカード		

\* ECC付きメモリも使用できますが、ECC機能はサポートされません。

メインボード上の2つのメモリソケットに最大合計512MB（256MB×2）のメモリカードを取り付けることができます（標準メモリとしてメモリカードが1枚～2枚取り付けられています）。

標準メモリのメモリカードを取りはずし、256MBのメモリカードを2枚実装することにより、最大512MBのメモリ容量にすることができます。

メモリ増設ソケットは、DIMM1がバンク0用、DIMM2がバンク1用です。

メモリ1枚	増設メモリ1枚		
	64MB	128MB	256MB
64MB	128MB	192MB	320MB
128MB	192MB	256MB	384MB
256MB	320MB	384MB	512MB



注意

- ・メモリ増設の際は、本製品に合ったメモリを使用してください。異種のメモリを使用すると正常に動作しない場合があります。
- ・メモリカードを増設されるときは、必ず本製品のオプションをお買い求めください。その他の製品を使用することはできません。もし使用した場合は、本体が正常に動作しない、または故障の原因になります。

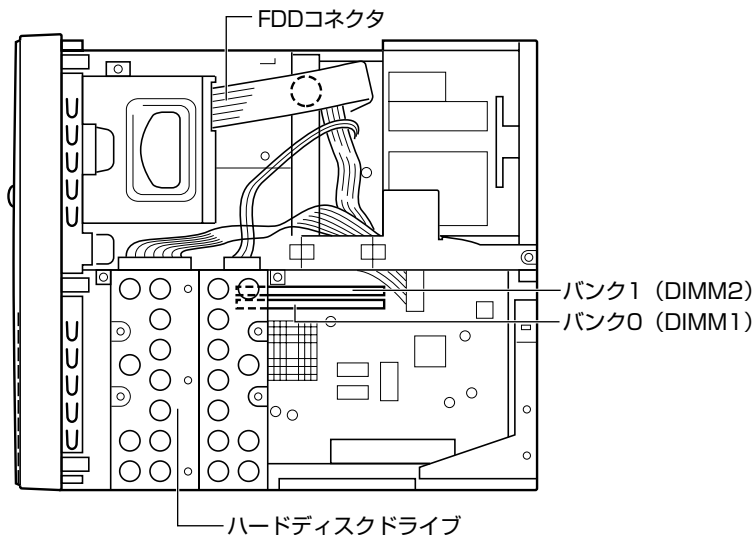


メモ

- ・各モデルでのシステムバスクロック（FSB）とメモリの動作クロックは次のとおりです。

	Pentium IIIモデル	Celeronモデル
システムバスクロック	133MHz	66MHz
メモリ動作クロック	133MHz（PC133対応）	100MHz（PC100対応）

- ・ECC機能はサポートしていません。



## 1 増設メモ리카ードの取り付け

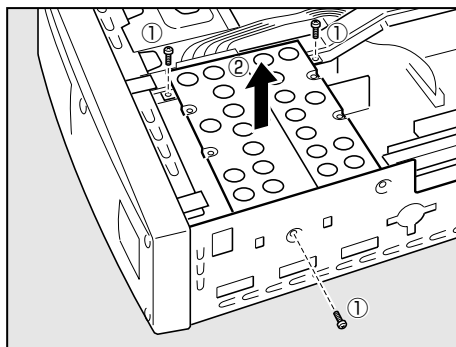
増設メモ리카ードの取り付け方法について説明します。



**注意** ・増設メモ리카ードは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモ리카ードの取り付け／取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 本体カバーを取りはずす  
☞ 「本章 7 本体カバーの取りはずし／取り付け」
- 6 ハードディスクドライブを固定しているネジ3本をはずし①、ハードディスクドライブを取りはずす②

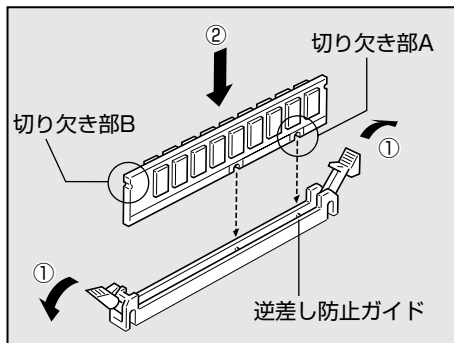
取りはずしたハードディスクドライブは、ケーブルに無理な力が入らないように裏返す形でフロッピーディスクドライブの上に置いてください。



お願い

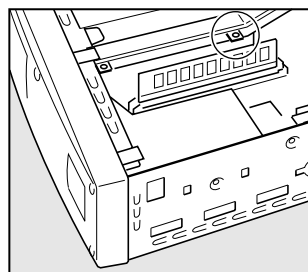
・ハードディスクドライブを取りはずすときは、しっかりと手に持って、ゆっくりと行なってください。ぶつけたり、落としたりして強い衝撃を与えると、ハードディスクドライブが故障するおそれがあります。

- 7** 左右のフックを矢印の方向に倒し①、増設メモリカードの切り欠き部 A を、メモリ増設ソケットの逆差し防止ガイドに合わせる②



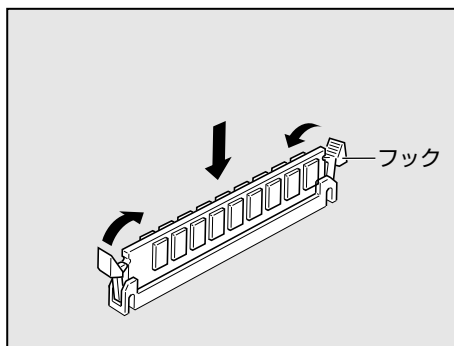
**注意**

- ・増設メモリカードの挿入方向をまちがえないでください。まちがえて取り付けると増設メモリカードやメモリ増設ソケットを破損する原因になります。
- ・増設メモリカードを挿入するときに、ハードディスクドライブを固定しているネジ穴の突起部に触れないようにしてください。



- 8** メモリ増設ソケットの左右のフックが切り抜き部 B に掛かるように、増設メモリカードを真上から押し込む

増設メモリカードが左右のフックで固定されます。左右のフックが垂直に立ち、増設メモリカードを固定していることを確認してください。



**注意**

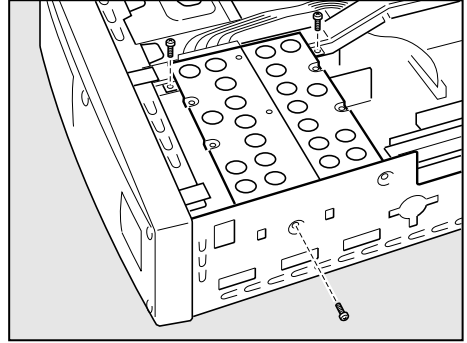
- ・増設メモリカードが完全に挿入されていない状態で使用すると、異常動作したり、増設メモリカードやメモリ増設ソケットを破損する原因になります。
- ・内部のケーブルをメモリカードとソケットではさみ込まないようにしてください。



お願い

- ・メモリカードの接点（金メッキ部）がきちんとソケットに入っていることを確認してください。正常に取り付けられていないと、システムが正常に起動できなかったり、故障の原因となります。

## 9 ハードディスクドライブをネジ3本で取り付ける



お願い

・ハードディスクドライブを取りはずすときは、しっかりと手に持って、ゆっくりと行なってください。ぶついたり、落としたりして強い衝撃を与えると、ハードディスクドライブが故障するおそれがあります。

## 10 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 7 本体カバーの取りはずし／取り付け」

以上で増設メモリカードの取り付けは完了です。

増設したメモリカードが認識されているか、次の「メモリ容量の確認」で確認してください。

## メモリ容量の確認

### 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする

[コントロールパネル] 画面が表示されます。

### 2 [システム] アイコンをダブルクリックする

[システムのプロパティ] 画面が表示されます。



合計のメモリ量が表示されます。

(表示例)

### 3 [全般] タブのRAMの数値が合計のメモリ量と合っているか確認する

次のような場合、増設メモリが正しく取り付けられていないか、故障している可能性があります。もう1度正しく増設メモリカードの取り付けを行なってください。

- ・電源が入らない
- ・システムが起動しない
- ・数値が合っていない



・VRAMとしてメインメモリを使用しているので、1～2MB少なく表示されます。

## 2 増設メモリカードの取りはずし

増設メモリカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞ 「本節 1 増設メモリカードの取り付け」



**注意** ・増設メモリカードは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け／取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 パソコン本体の電源を切る

3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす

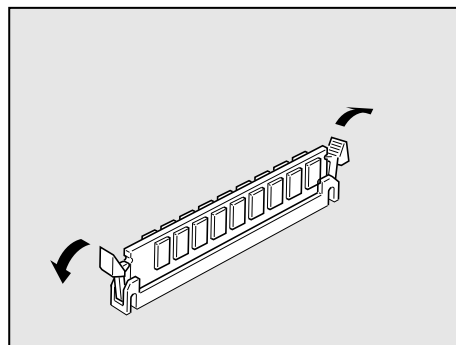
5 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 7 本体カバーの取りはずし／取り付け」

6 ハードディスクドライブを固定しているネジ3本をはずし、ハードディスクドライブを取りはずす

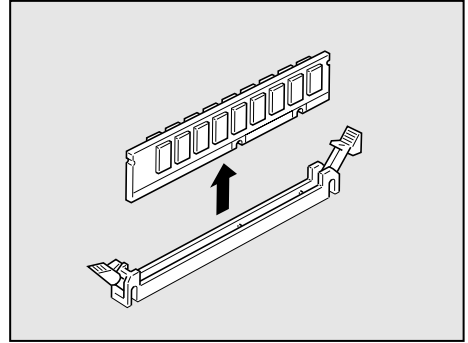
7 ソケットのフックを両側に開く

増設メモリカードが少し出てきます。

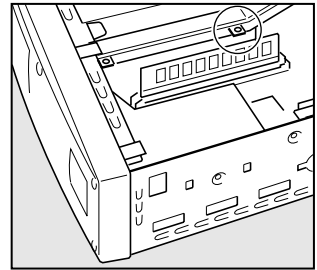




## 8 増設メモリカードを真上に引き抜く



- ⚠ 注意** ・増設メモリカードを取りはずすときに、ハードディスクドライブを固定しているネジ穴の突起部に触れないようにしてください。



## 9 ハードディスクドライブをネジ3本で取り付ける

## 10 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 7 本体カバーの取りはずし／取り付け」

メモリカードを取りはずしたら、正しく容量が認識されているか本体を起動して確認してください。

☞ メモリ容量を確認する ☞ 「本節 1- メモリ容量の確認」

# 10 内蔵バッテリーの交換

このバッテリーは時計およびシステム構成情報（BIOS セットアップの設定内容）を保持するためのものです。内蔵バッテリーを交換する（取りはずす）と、BIOS セットアップの再設定を行う必要があります。

通常の使用環境では、バッテリーの寿命は約3年です。

バッテリーが寿命に達すると、次のメッセージが表示されますので手順に従って交換を行なってください。

CMOS Checksum Bad



**注意** ・本装置の内蔵バッテリーには、リチウム電池が使われています。リチウム電池の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。

取り扱いを誤ると、発熱、破裂、発火、中毒、やけどなどの危険があります。

- ・充電、電極除去、分解をしない
- ・100℃以上の加熱、焼却をしない
- ・電池は水にぬらさない
- ・子供が飲み込んだりしないよう、十分注意する
- ・電池の内部の液がもれたときは、液にふれない

リチウム電池を廃棄する場合は、地方自治体の条例、または規則に従ってください。



お願い

・電池を取りはずすと、システム構成情報（BIOS セットアップでの設定）が失われます。あらかじめシステム構成情報を控えておき、電池を交換した後で設定し直してください。

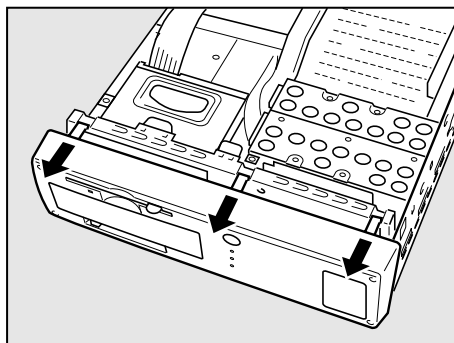
☞ 「5章 BIOS セットアップについて」

・本装置に使用できる内蔵バッテリーはCR2032 リチウム電池です。交換の際は、市販のCR2032 リチウム電池をお買い求めのうえ、ご使用ください。

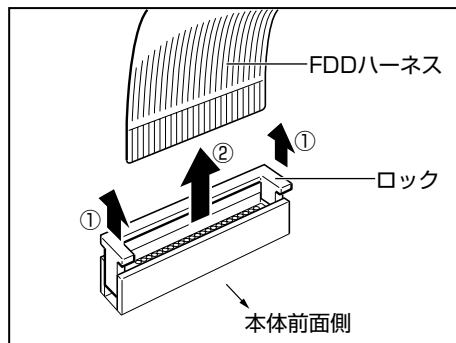
バッテリーの交換は必ず次の手順に従ってください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 本体カバーを取りはずす  
☞ 「本章 7 本体カバーの取りはずし／取り付け」
- 6 フロントベゼルを手前に引いて取りはずす

フロントベゼルは、上下3箇所ずつのツメで本体と固定しています。取りはずすときは、ツメを折らないように注意してください。

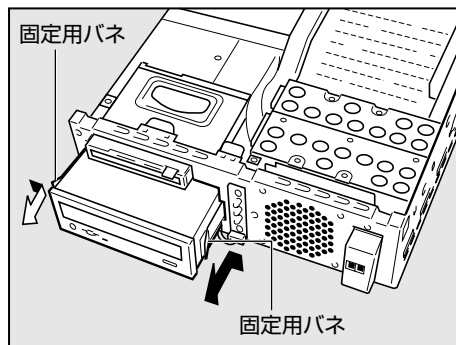


- 7** フロッピーディスクドライブ背面にあるFDDコネクタのロックを引き上げて①、FDDハーネスを取りはずす②



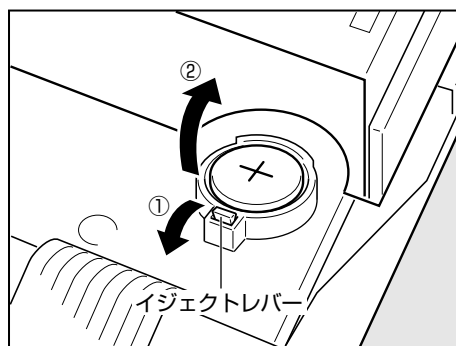
- 8** CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブの左右の固定用バネを押しながら、手前に5cmほど引く

CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブに接続されているケーブルを無理に引っ張らないように注意してください。



- 9** バッテリーの位置を確認し、イジェクトレバーを押す①

バッテリーが少し浮き上がります②。  
イジェクトレバーが押しにくいときは、マイナスドライバーを引っかけてバッテリーを取りはずしてください。



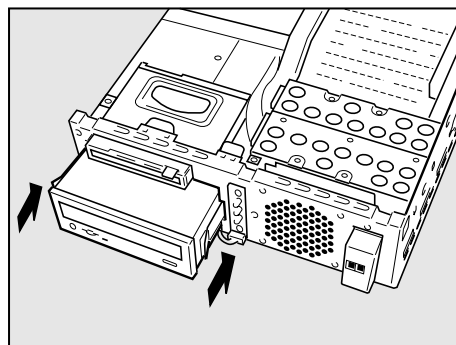
- 10** 新しいバッテリーの (+) 側を上にして取り付ける



お願い

・バッテリーの極性 (+、-) を間違えないように取り付けてください。  
+側は、「+」マークや「CR2032」と表示されている側です。

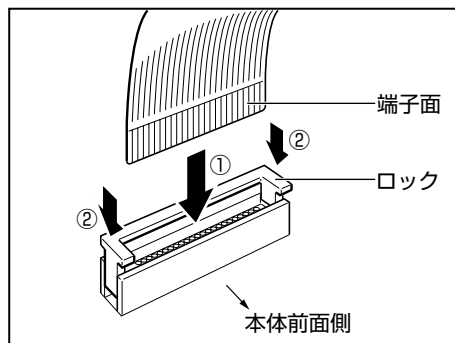
- 11** CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブをパチンと音がするまで押して本体に取り付ける



## 12 FDD ハーネスを FDD コネクタに接続する

FDD ハーネスを、フロッピーディスクドライブ背面にある FDD コネクタに差し込み①、ロックを下に押し下ろします②。

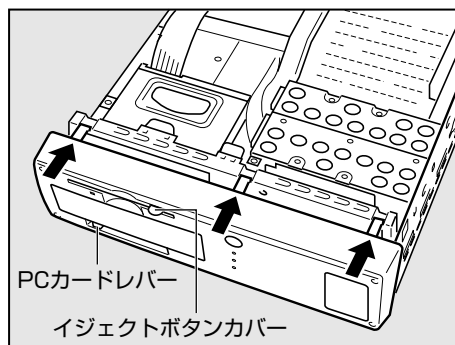
このとき、FDD ハーネスの端子面が本体前面側にくるように、差し込んでください。



**注意** ・FDD ハーネスの差し込みが不十分の場合、本体が正常に起動しない、または故障の原因となります。ハーネスをしっかりと差し込んだ後、確実にロックしてください。

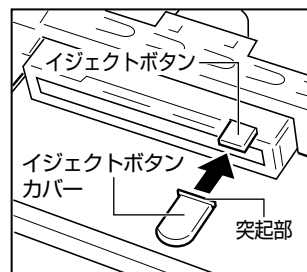
## 13 フロントベゼルを取り付ける

PC カードレバーとフロッピーディスクドライブのイジェクトボタンカバーが、フロントベゼルの位置と合うようにして取り付けてください。



メモ

・フロントベゼルからフロッピーディスクドライブのイジェクトボタンカバーがとれてしまったときは、図のようにして、カバー根元の突起部を上向きにしてフロッピーディスクドライブのイジェクトボタンに取り付け、フロントベゼルを取り付けてください。



## 14 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 7 本体カバーの取りはずし／取り付け」



お願い

・再起動後、BIOS セットアップを起動し、再設定してください。  
☞ BIOS セットアップについて ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

# 5

## BIOS セットアップについて

本章では、BIOS セットアッププログラムの機能と工場出荷時の設定について説明します。

<b>1</b>	BIOS セットアップとは.....	118
<b>2</b>	BIOS を工場出荷時設定に戻すには .....	122
<b>3</b>	Main メニューの詳細 .....	123
<b>4</b>	Advanced メニューの詳細 .....	125
<b>5</b>	Security メニューの詳細 .....	135
<b>6</b>	Exit メニューの詳細 .....	137
<b>7</b>	工場出荷時の設定値 .....	138

# ① BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パスワードやハードディスク、周辺機器の使いかたなどを本体に設定するプログラムのことです。

BIOS セットアップで設定された情報は、CMOS-RAM と呼ばれる特殊なメモリに保存され、電源を切っても設定した内容が消失しないように内蔵バッテリーで保持されます。メモリの増設などの変更をしない限り、1 度 BIOS セットアップを行えば以降は必要ありません。ただし、内蔵バッテリーが消耗または電池交換を行なった場合は、BIOS セットアップは既定値に戻りますので、設定した内容はメモをとるなどして忘れないようにしてください。



メモ

・ BIOS セットアップ画面は英語表示のみです。日本語での、項目／説明の表示はありません。

## ① BIOS セットアップの起動方法

### 1 電源を入れた直後（起動時）に **[Delete]** キーを押し続ける

起動時に、次の「TOSHIBA」画面が表示された後、セットアップ画面が表示されます。セットアップ画面が表示されたら **[Delete]** キーを離してください。



お願い

・ **[Delete]** キーの入力が受け付けられるのは、パソコンの電源を入れてから数秒間です。この時間内に **[Delete]** キーを押し続けないと、システムが起動します。

BIOS セットアップが起動できなかった場合は、通常の終了操作を行なって、パソコン本体の電源を切り、上記の手順 1 をやり直してください。

In Touch with Tomorrow  
**TOSHIBA**

Press [Tab] to POST screen, [Del] to enter SETUP

## ② BIOS セットアップの操作方法

### ● BIOS セットアップ画面について

BIOS セットアップを起動すると Main メニューが表示されます。

白または青文字で表示されている項目は、設定値を変更することができます。  
灰色に表示されている項目は、変更できない状態です。  
設定値を変更するには、項目上にカーソルを移動して [Enter] キーを押し、[Option] メニューから設定値を選んで [Enter] キーを押します。

現在開いているメニューが白文字で表示されます。メニューを移動するには [←] [→] キーを押します。

選択している項目は白文字で表示されます。

選択している項目の説明が表示されます。

AMIBIOS EASY SETUP UTILITY Ver. 1.32T  
(C)2000 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved

Main Advanced Security Exit

System Data XXX XXX XX XXXX  
System Time XX:XX:XX XX

Floppy Drive A 1.44 MB 3 1/2  
Floppy Drive B Not Installed

Primary IDE Master Auto  
Primary IDE Slave Not Installed  
Secondary IDE Master Auto  
Secondary IDE Slave Not Installed

Auto-Detect Hard Disks [ Enter ]

Boot Sector Virus Protection Disabled

Month: Jan - Dec  
Day: 01 - 31  
Year: 1980 - 2099

← Previous Item  
↓ Next Item  
← Select Menu

Esc :Exit Enter :Select F5 :Setup Defaults F6 :Original Values F10 :Save & Exit

[Enter] の表示がある項目は、サブメニューがあることを示します。サブメニューを表示するには、[Enter] キーを押します。サブメニューから 1 つ前のメニューに戻るには、[Esc] キーを押します。

### ● 使用するキーについて

BIOS セットアップでは、マウスが使用できないため、キーボード上のメニューや項目の移動、値の入力などを行います。

ここでは、BIOS セットアップで主に使用するキーについて説明します。

#### ● [↑]、[-] キー

1 つ前の項目に移動します。

#### ● [↓]、[+] キー

1 つ先の項目に移動します。

#### ● [←] キー

左のメニューに移動します。

#### ● [→] キー

右のメニューに移動します。

## ● F5 キー

BIOS セットアップの既定値を呼び出します。

F5キーを押すと「Load high performance settings」というメッセージが表示されます。設定を既定値に戻す場合はEnterキーを、戻さないでセットアップを続ける場合はEscキーを押します。



お願い

・工場出荷時の設定は、既定値と異なります。工場出荷時の状態に戻す場合は、1度F5キーで既定値に戻し、工場出荷時の設定値に変更してから保存してください。

☞ 詳細について ☞ 「本章 7 工場出荷時の設定値」

## ● F6 キー

最後に保存された設定値に戻します。

F6キーを押すと「Load setup original values」というメッセージが表示されます。設定を元に戻す場合はEnterキーを、戻さないでセットアップを続ける場合はEscキーを押します。

## ● Enter キー

メニューで選択したサブメニューを表示します。

## ● F10 キー

Mainメニューで現在の設定を保存し（CMOS-RAMに書き込み）、BIOS セットアップを終了して、システムを起動します。

F10キーを押すと「Save current settings and exit」というメッセージが表示されます。設定を保存して終了する場合はEnterキーを、保存しないでセットアップを続ける場合はEscキーを押します。

## ● Esc キー

Mainメニューでは、設定を保存せずに終了する画面が表示されます。サブメニューでは、Mainメニューに戻ります。

Escキーを押すと「Quit without saving changes」というメッセージが表示されます。設定を保存せずに終了する場合はEnterキーを、セットアップを続ける場合はEscキーを押します。



### 3 BIOS セットアップの内容

BIOS セットアップは、4つのメニューとその下に続くサブメニューから構成されています。

- Main

日付や時間、ドライブ類の設定を行います。

- Advanced

チップセット、パワーマネージメント、プラグ アンド プレイ、周辺機器などに関する設定を行います。

- Security

管理者、またはユーザのパスワードを設定します。

- Exit

設定した内容の保存、呼び出しを行います。

なお、BIOS セットアップの内容は出荷時期により多少異なる場合があります。



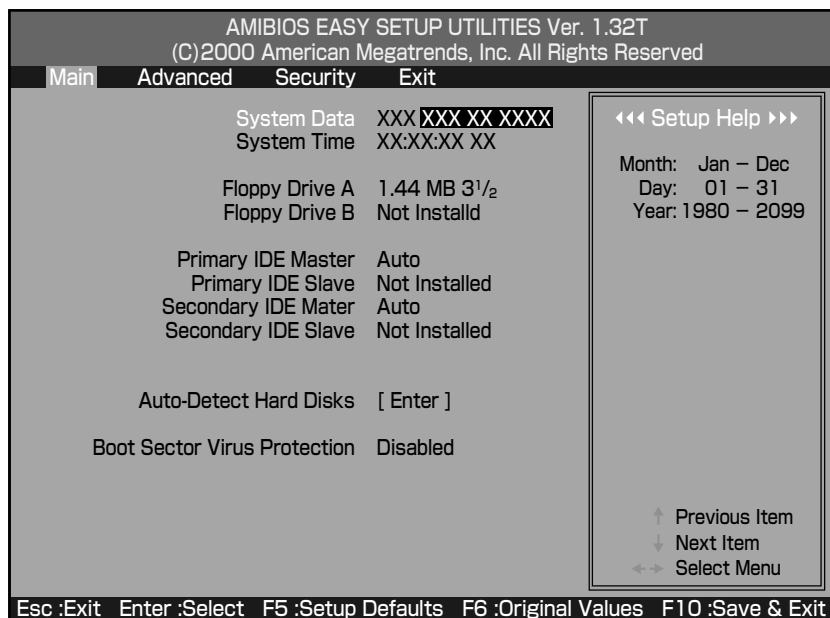
**注意** ・BIOS セットアップの内容は、システムが最適に動作するように工場出荷時に設定されています。変更はおすすめしません。  
変更が必要な場合は、ユーザサポート窓口にお問い合わせください。

## 2

# BIOS を工場出荷時設定に戻すには

- 1** BIOS セットアップを起動する  
☞ BIOS セットアップの起動方法 ⇨ 「本章 1-1 BIOS セットアップの起動方法」
- 2** [Exit] メニューより「Load Setup Default Settings」を選択し、  
[Enter]キーを押す  
「Load Setup Default settings」と表示されます。
- 3** 各項目を工場出荷時の設定にする  
☞ 工場出荷時の設定値 ⇨ 「本章 7 工場出荷時の設定値」
- 4** [F10]キーを押す  
「Save current settings and exit」と表示されます。
- 5** [Enter]キーを押す  
変更した設定を保存して終了します。

日付の設定、フロッピーディスクドライブ、ハードディスクドライブの設定などを行います。



(表示例)

## Date (System Date)

年（西暦）月日を設定します。

[月/日/年] の項目移動には、、キーを使います。

値の変更は、、キーを使います。

## System Time

時刻を設定します。

[時:分:秒] の項目移動には、、キーを使います。

値の変更は、、キーを使います。

## Floppy Drive A Floppy Drive B

接続しているフロッピーディスクドライブのタイプを設定します。

本装置は標準で、ドライブ A に [1.44MB 3 1/2] タイプのフロッピーディスクドライブを搭載しています。

- ・ Not Installed..... 接続されていない
- ・ 360KB 5 1/4 ..... 5 型 360KB フロッピーディスクドライブ
- ・ 1.2MB 5 1/4 ..... 5 型 1.2MB フロッピーディスクドライブ
- ・ 720KB 3 1/2 ..... 3.5 型 720KB フロッピーディスクドライブ
- ・ 1.44MB 3 1/2 ..... 3.5 型 1.44MB フロッピーディスクドライブ
- ・ 2.88MB 3 1/2 ..... 3.5 型 2.88MB フロッピーディスクドライブ

## Primary IDE Master Primary IDE Slave

## Secondary IDE Master Secondary IDE Slave

IDE インタフェース上のドライブを設定します。

- ・ Primary IDE Master ..... メインボード上の第 1 (Primary) IDE インタフェースの  
マスタ (Master)
- ・ Primary IDE Slave ..... メインボード上の第 1 (Primary) IDE インタフェースの  
スレーブ (Slave)
- ・ Secondary IDE Master .. メインボード上の第 2 (Secondary) IDE インタフェース  
のマスタ (Master)
- ・ Secondary IDE Slave ... メインボード上の第 2 (Secondary) IDE インタフェース  
のスレーブ (Slave)

本装置は、標準状態でハードディスクドライブが [Primary IDE Master] に、  
CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブが [Secondary IDE Master]  
に設定されています。

[Enter] キーを押すと、次の項目が表示されます。

### ▼ IDE Device Configuration

IDE ドライブのタイプを設定します。

- ・ Auto ..... 自動設定
- ・ Not Installed ..... 接続されていない
- ・ 01 ~ 46 ..... HDD のパラメータを選択することができます
- ・ User ..... HDD パラメータを設定することができます
- ・ CDROM ..... CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブ
- ・ Floptical ..... フロッピーディスクドライブ

### ▼ 32Bit Tranfar Mode

ハードディスクドライブへのアクセスを 32Bit で行う機能を使用するかどうかを  
設定します。

- ・ On ..... 使用する
- ・ Off ..... 使用しない

## Auto-Detect Hard Disks

[Enter] キーを押すと、自動的にすべての IDE ドライブを検出し、パラメータを  
設定します。

## Boot Sector Virus Protection

ハードディスクのブートセクタを書き換えるプログラムやウィルスを発見した場  
合に警告メッセージを表示するかどうかを設定します。

- ・ Disabled ..... メッセージを表示しない
- ・ Enabled ..... メッセージを表示する



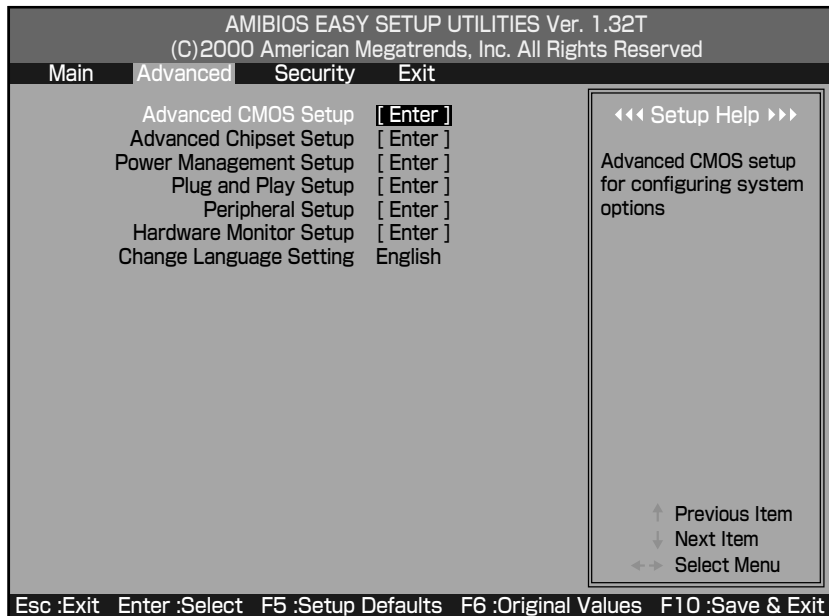
メモ

・ システム (OS) を再インストールするときに [Enabled] に設定していると、正  
しくインストールできないことがあるので、一時的に [Disabled] に設定してく  
ださい。

# 4

# Advanced メニューの詳細

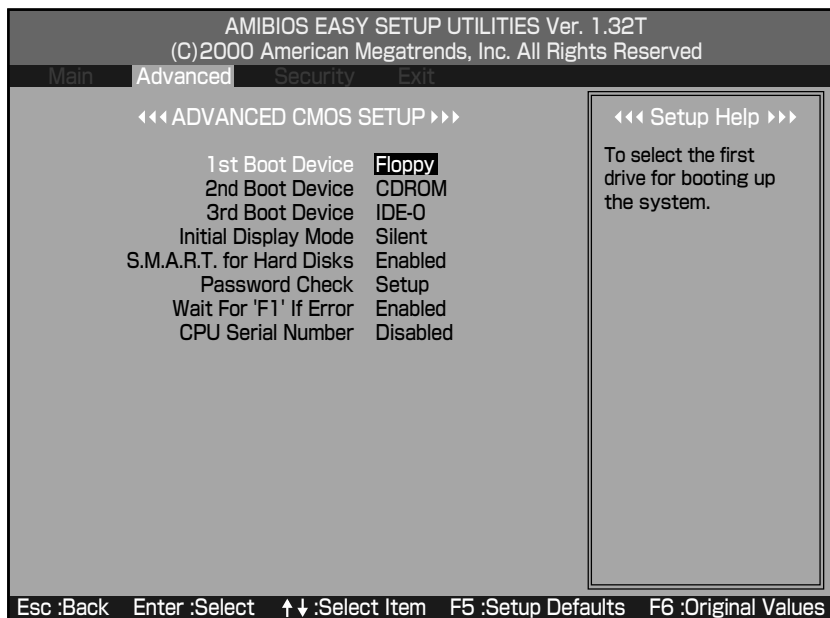
チップセット、パワーマネジメント、プラグ アンド プレイ、周辺機器などに関する設定を行います。



(表示例)

それぞれの項目で[Enter]キーを押すと、次のサブメニュー画面が表示されます。

## ● ADVANCED CMOS SETUP



(表示例)

## ▼ 1st Boot Device / 2nd Boot Device / 3rd Boot Device

起動するドライブの順番を指定できます。[1st Boot Device] は起動する際に優先順位が最も高いドライブで、以下 [2nd Boot Device]、[3rd Boot Device] と順位が下がります。また、CD-R/RW ドライブから起動する場合は、[CDROM] を選択します。

- ・ Disabled
- ・ IDE-0
- ・ Floppy
- ・ LS-120/ZIP
- ・ CDROM
- ・ SCSI
- ・ NETWORK

## ▼ Initial Display Mode

起動時に TOSHIBA ログ画面表示を消すかどうかを設定をします。

- ・ BIOS ..... TOSHIBA ログ画面を表示しない
- ・ Silent ..... TOSHIBA ログ画面を表示する

## ▼ S.M.A.R.T. for Hard Disks

"S.M.A.R.T." は、"Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technology" を表します。

ハードディスクドライブの状態を監視し、いくつかの（すべてではなく）障害を予測する機能です。この機能を使用するには、対応するハードディスクドライブとソフトウェアが必要となります。

- ・ Disabled ..... S.M.A.R.T 機能を使用しない
- ・ Enabled ..... S.M.A.R.T 機能を使用する

## ▼ Password Check

パソコン本体が起動するたび、もしくは、BIOS のセットアップを実行するたびにパスワードの入力画面を表示するかどうかを設定をします。

Security メニューで、パスワードが設定されている場合のみ有効です。

- ・ Setup ..... BIOS のセットアップを起動するたびにパスワード入力画面を表示する
- ・ Always ..... パソコン本体が起動するたびにパスワード入力画面を表示する

## ▼ Wait For 'F1' If Error

起動時にエラーを検出したときに、確認のために[F1]キーを押すようにする機能を使用するかどうかを設定をします。

- ・ Disabled ..... 使用しない
- ・ Enabled ..... 使用する

### ▼ CPU Serial Number

CPUが持っているシリアルナンバ機能を有効にするかどうかを設定します。

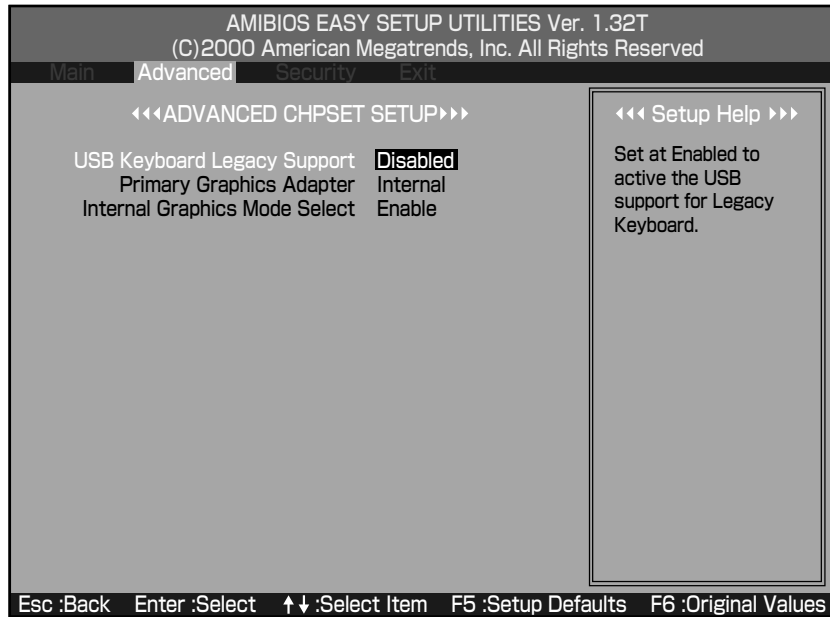


メモ

・ Celeron モデルでは、この機能は使用できません。

- ・ Disabled ..... 無効にする
- ・ Enabled ..... 有効にする

## ● ADVANCED CHIPSET SETUP



(表示例)

### ▼ USB Keyboard Legacy Support

USB キーボードを有効にするかどうかを設定します。

- ・ Disabled ..... 無効にする
- ・ Enabled ..... 有効にする

### ▼ Primary Graphics Adapter

PCI スロットに外付けのグラフィックカードを挿入したときに、プライマリとしてオンボードのグラフィック機能を使用するか外付けのグラフィックカードを使用するかを設定します。

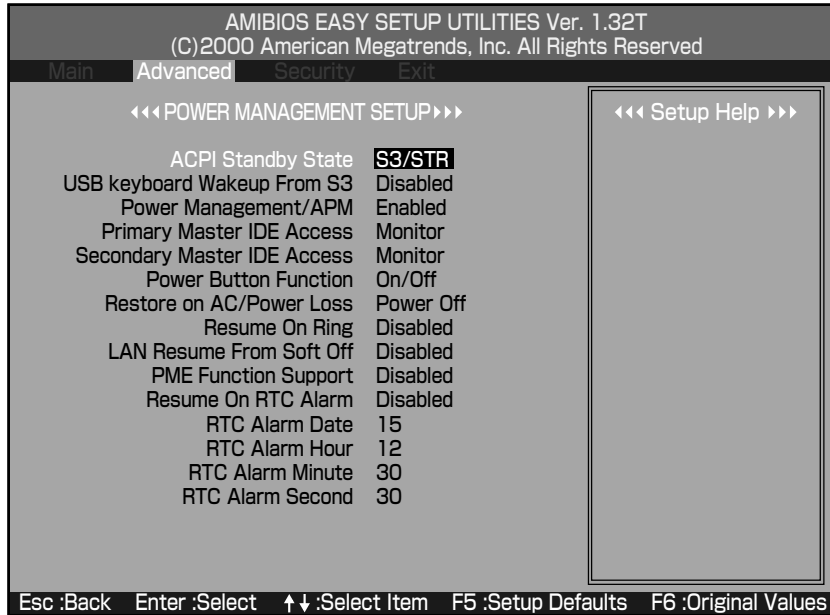
- ・ Internal ..... オンボードのグラフィック機能を使用する
- ・ External PCI ..... PCI スロットに挿入したグラフィックカードを使用する

### ▼ Internal Graphics Mode Select

[Primary Graphics Adapter] が [External PCI] に設定されている場合に、オンボードのグラフィック機能を使用するかどうかを設定します。

- ・ Disabled ..... 使用しない
- ・ Enable ..... 使用する

## POWER MANAGEMENT SETUP



(表示例)

### ▼ ACPI Standby State

使用する省電力モードの種類を設定します。

- ・ S1/POS ..... Power On Suspend : 周辺デバイスの電源を切断する
- ・ S3/STR ..... Suspend To RAM : メモリ以外の電源を切断する



お願い

・工場出荷時は [S3/STR] に設定されています。[F5]キーを押して既定値に戻した場合、[S1/POS] に設定されますので、[S3/STR] に設定し直してください。



メモ

・増設するオプションカードやUSB機器によっては、正常にスタンバイ状態に移行しない、またはスタンバイ状態から通常モードへ復帰しない場合があります。動作に問題が生じる場合は、[S1/POS] に設定してください。それでも動作に問題が生じる場合は、省電力機能を使用しない設定に変更してください。

☞ 省電力設定について ⇨ 「2章 4 省電力機能について」

### ▼ USB keyboard Wakeup From S3

[ACPI Standby State] が [S3/STR] に設定されている場合、USB接続のキーボードから省電力モード (S3) を解除することを可能にするかどうかを設定します。

- ・ Disabled ..... 可能にしない
- ・ Enabled ..... 可能にする

### ▼ Power Management/APM

省電力管理および、APM(Advanced Power Management)を有効にするかどうかを設定します。

- ・ Enabled ..... 有効にする
- ・ Disabled ..... 無効にする



### ▼ Primary Master IDE Access / Secondary Master IDE Access

ハードディスクドライブ (Primary Master IDE) および CD-ROM ドライブもしくは CD-R/RW ドライブ (Secondary Master IDE) へのアクセスを監視します。アクセスがある場合は、キーボードやマウスが操作されているのと同様に、省電力モードへは移行しません。キーボードやマウスの操作がなく、アクセスもない場合に、省電力機能で設定した時間が経過すると、省電力モードに移行します。

- ・ Ignore ..... 監視しない
- ・ Monitor ..... 監視する

### ▼ Power Button Function

電源スイッチの用途を設定します (Windows 上では、システム上で設定するため、本設定は無効となります)。

- ・ On/Off ..... 電源スイッチを押すと、電源のオン・オフができる
- ・ Suspend ..... 電源スイッチを押すと、スタンバイモードに移行する



・ [Suspend] に設定して電源スイッチを 4 秒以上押し続けると、電源が切れます。

### ▼ Restore on AC/Power Loss

停電などにより電気の供給が止まった場合、電気の供給が再開されたときの電源の状態を決定します。

- ・ Power Off ..... 電源を入れない
- ・ Power On ..... 電源を入れる
- ・ Last State ..... 電気の供給が止まったときの状態にする

### ▼ Resume On Ring

モデムを接続している状態で、モデムの RI 信号によりシステムの電源を入れる機能を使用するかどうかを設定します。

- ・ Disabled ..... 使用しない
- ・ Enabled ..... 使用する

### ▼ LAN Resume From Soft Off

他のコンピュータからの WOL (Wake On LAN) 信号で、システムの電源を入れる、もしくは省電力モードから通常モードへの復帰を行う機能を使用するかどうかを設定します。

- ・ Disabled ..... 使用しない
- ・ Enabled ..... 使用する



・ 内蔵の LAN で WOL 機能を使用する場合には、次にある [PME Function Support] の設定を [Enabled] にしてください。  
本設定は、PCI の LAN カードを使用する場合に使用します。

## ▼ PME Function Support

PCI カードからの PME 信号で、システムの電源を入れる、もしくは省電力モードから通常モードへの復帰を行う機能を使用するかどうかを設定します。

- ・ Disabled ..... 使用しない
- ・ Enabled ..... 使用する



・ 内蔵の LAN で WOL 機能を使用する場合には、この設定を [Enabled] にしてください。

## ▼ Resume On RTC Alarm

内蔵時計でシステムを起動する日時を設定する機能を使用するかどうかを設定します。

- ・ Disabled ..... 使用しない
- ・ Enabled ..... 使用する

## ▼ RTC Alarm Date

[Resume On RTC Alarm] が、[Enabled] に設定されている場合、システムが起動する日を設定できます。

- ・ 1, 2, ..., 31 day ..... システムが起動する日を設定する
- ・ Every Day ..... 毎日起動するように設定する

## ▼ RTC Alarm Hour

[Resume On RTC Alarm] が、[Enabled] に設定されている場合、システムが起動する時間を設定できます。

- ・ 0, 1, 2, ..., 23 hours ..... システムが起動する時間を設定する

## ▼ RTC Alarm Minute

[Resume On RTC Alarm] が、[Enabled] に設定されている場合、システムが起動する分を設定できます。

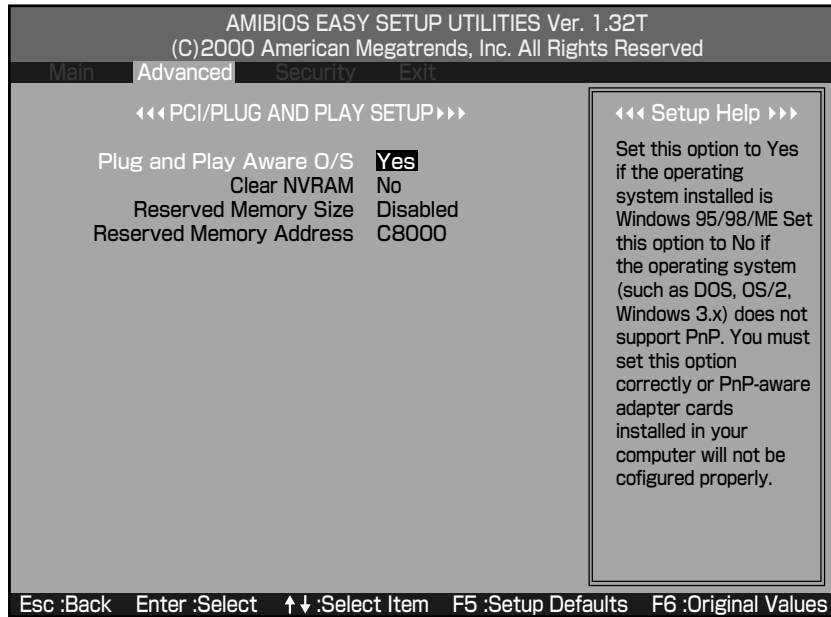
- ・ 0, 1, 2, ..., 59 minutes .... システムが起動する分を設定する

## ▼ RTC Alarm Second

[Resume On RTC Alarm] が、[Enabled] に設定されている場合、システムが起動する秒を設定できます。

- ・ 0, 1, 2, ..., 59 seconds ... システムが起動する秒を設定する

## ● PCI/PLUG AND PLAY SETUP



(表示例)

### ▼ Plug and Play Aware O/S

プラグ アンド プレイ対応のシステム (OS) かどうかを設定します。

- ・ No ..... プラグ アンド プレイに対応していない OS を使用する
- ・ Yes ..... プラグ アンド プレイに対応している OS を使用する

### ▼ Clear NVRAM

プラグ アンド プレイの構成情報を NVRAM から消去するかどうかを設定します。

- ・ No ..... 消去しない
- ・ Yes ..... 消去する

### ▼ Reserved Memory Size

拡張 BIOS を搭載したオプションカードにメモリを割り当てるかどうかを設定します。

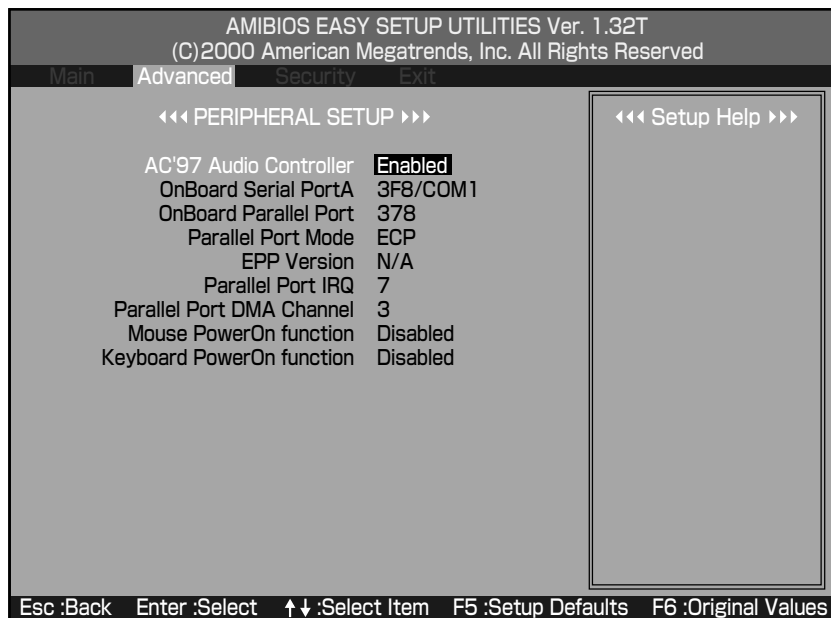
- ・ Disabled ..... 割り当てない
- ・ 16k
- ・ 32k
- ・ 64k

## ▼ Reserved Memory Address

[Reserved Memory Size] でメモリを割り当てた場合に、メモリのアドレスを指定します。

- ・ C0000
- ・ C4000
- ・ C8000
- ・ CC000
- ・ D0000
- ・ D4000
- ・ D8000
- ・ DC000

## PERIPHERAL SETUP



(表示例)

## ▼ AC'97 Audio Controller

オンボードのオーディオコントローラを使用するかどうかを設定します。

- ・ Enabled ..... 使用する
- ・ Disabled ..... 使用しない

## ▼ OnBoard Serial PortA

パソコン本体のシリアルポート A を使用可能にし、ベースアドレスを指定します。

- ・ Disabled ..... 使用しない
- ・ 3F8/COM1
- ・ 2F8/COM2
- ・ 3E8/COM3
- ・ 2E8/COM4

### ▼ OnBoard Parallel Port

パソコン本体の平行ポートを使用可能にし、ベースアドレスを指定します。

- ・ Disabled ..... 使用しない
- ・ 378
- ・ 278
- ・ 3BC

### ▼ Parallel Port Mode

平行ポートのモードを設定します。

- ・ Normal
- ・ Bi-Dir
- ・ EPP
- ・ ECP

### ▼ EPP Version

[Parallel Port Mode] で [EPP] に設定した場合、EPPバージョンを設定します。

- ・ 1.9
- ・ 1.7

### ▼ Parallel Port IRQ

平行ポートのIRQを設定します。

- ・ 5
- ・ 7

### ▼ Parallel Port DMA Channel

平行ポートのDMAチャンネルを設定します。

- ・ 0
- ・ 1
- ・ 3

### ▼ Mouse PowerOn function

マウスから電源を入れる機能を使用するかどうかを設定します。

- ・ Disabled ..... 使用しない
- ・ Left-botton ..... 左ボタンクリックで起動するようにする
- ・ Right-botton ..... 右ボタンクリックで起動するようにする

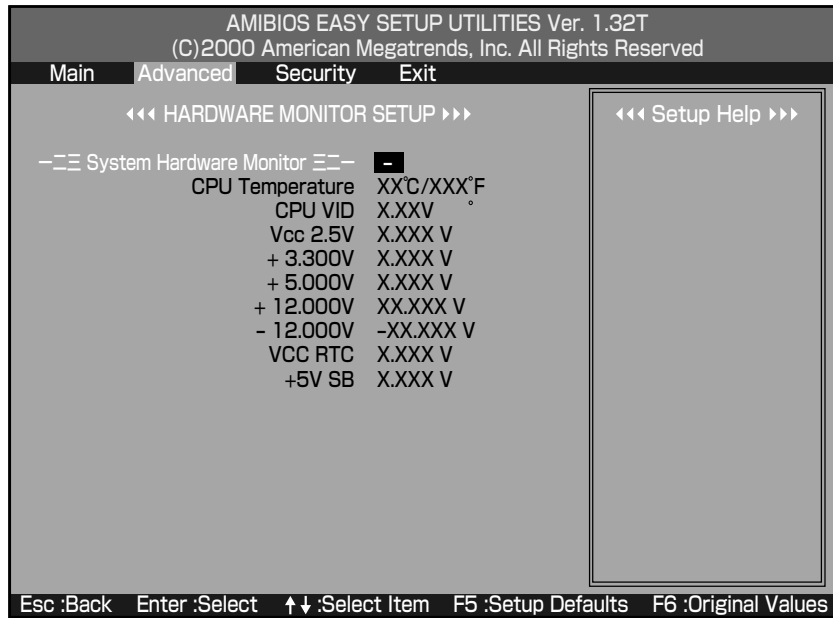
### ▼ Keyboard PowerOn function

キーボードから電源を入れる機能を使用するかどうかを設定します。

- ・ Disabled ..... 使用しない
- ・ Power Key ..... キーボードに Power ボタンがある場合、このボタンで起動するようにする
- ・ Any Key ..... キーボードのどれかのキーを押したときに起動するようにする

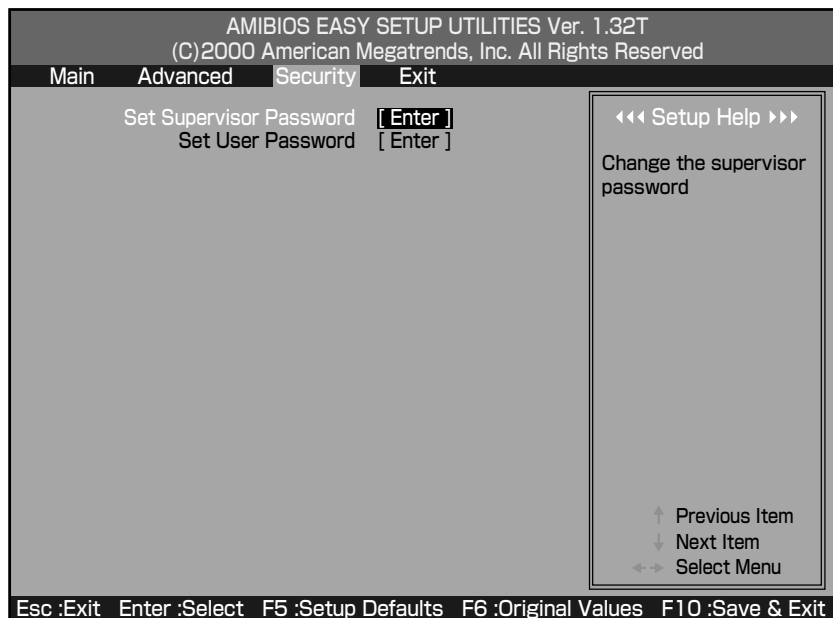
## HARDWARE MONITOR SETUP

CPU コア温度や電源の監視状況を確認することができます。



(表示例)

# 5 Security メニューの詳細



(表示例)

## ● パスワードの設定

管理者パスワードとユーザパスワードを設定することができます。

パスワードが必要な場合は、パスワードを入力する画面が表示されたときに[Enter]キーを押します。

ユーザパスワードを設定した場合、ユーザパスワードでの起動時にBIOSセットアップにて設定できる項目が制限されます。

キーボードからパスワードを登録することができます。[Supervisor]か[User]を選択すると、BIOSがパスワードを入力するように指示してきます。

ユーザパスワードを設定する前に管理者パスワードを設定しなければなりません。

1文字から6文字までのパスワードを設定します。キーボードから入力しているとき、入力した文字は表示されません。

## ● パスワードの変更

パスワードを入力し、**[Enter]**キーを押します。新しいパスワードを入力し、すぐに同じ新しいパスワードを再び入力してから**[Enter]**キーを押します。2度目に違うパスワードを入力すると、エラーメッセージが表示されます。

### Set Supervisor Password

管理者パスワードの設定および変更を行います。

### Set User Password

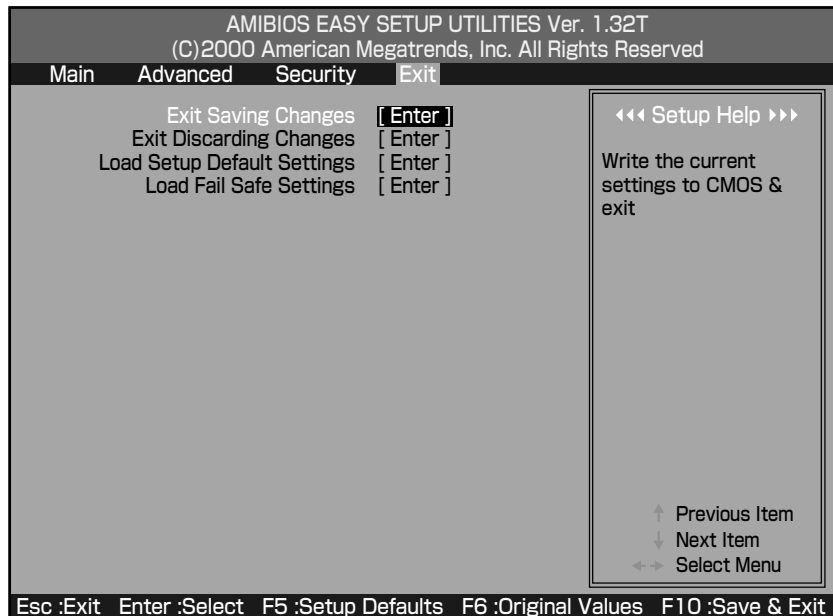
ユーザパスワードの設定および変更を行います。



お願い

- ・パスワードを登録する場合は、忘れないように必ずパスワードを控えてください。
- ・パスワードは表示されませんので、確認することはできません。
- ・パスワードを忘れてしまった場合、同梱の『保守サービスのご案内』をご覧ください。お近くのサービスステーションにパスワードの解除をご依頼ください。パスワードの解除は有償で行なっています。また、そのとき身分証明書（お客様ご自身を確認できるもの）の提示が必要となります。





### Exit Saving Changes

CMOS に新規設定を書き込んでから、セットアップを終了します。

### Exit Discarding Changes

CMOS に新規設定を書き込まずにセットアップを終了します。

### Load Setup Default Settings

BIOS セットアップの内容を既定値に戻します。

本メニューを選択した場合は、その後ご使用のモデルの工場出荷時の設定に変更してください。

☞ 工場出荷時の設定値 ⇨ 「本章 7 工場出荷時の設定値」

### Load Fail Safe Settings

コンピュータが起動しない場合、この選択肢を選び、コンピュータが起動した後に、起動できなかった原因を突き止めます。

この設定はあまりおすすめできません（最良の設定ではありません）。

# 7 工場出荷時の設定値

項目の設定については各メニューの詳細をご覧ください。  
[Security] メニュー、[Exit] メニューには工場出荷時の設定値はありません。

## Main メニュー

Mainメニューの項目		工場出荷時設定
System Date		—
System Time		—
Floppy Drive A		1.44MB 3 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>
Floppy Drive B		Not Installed
Primary IDE Master	IDE Device Configuration	Auto
	32Bit Transfer Mode	Off
Primary IDE Slave	IDE Device Configuration	Not Installed
	32Bit Transfer Mode	—
Secondary IDE Master	IDE Device Configuration	Auto
	32Bit Transfer Mode	Off
Secondary IDE Slave	IDE Device Configuration	Not Installed
	32Bit Transfer Mode	—
Auto-Detect Hard Disks		—
Boot Sector Virus Protection		Disabled

## Advanced メニュー

Advancedメニューの項目		工場出荷時設定
Advanced CMOS Setup	1st Boot Device	Floppy
	2nd Boot Device	CDROM
	3rd Boot Device	IDE-0
	Initial Display Mode	Silent
	S.M.A.R.T. for Hard Disks	Enabled
	Password Check	Setup
	Wait For 'F1' If Error	Enabled
	CPU Serial Number	Disabled
Advanced Chipset Setup	USB Keyboard Legacy Support	Disabled
	Primary Graphics Adapter	Internal
	Internal Graphics Mode Select	—

Advancedメニューの項目		工場出荷時設定
Power Management Setup	ACPI Standby State	S3/STR* 1
	USB keyboard Wakeup From S3	—
	Power Management/APM	Enabled
	Primary Master IDE Access	Monitor
	Secondary Master IDE Access	Monitor
	Power Button Function	On/Off
	Restore on AC/Power Loss	Power Off
	Resume On Ring	Disabled
	LAN Resume From Soft Off	Disabled
	PME Function Support	Disabled
	Resume On RTC Alarm	Disabled
	RTC Alarm Date	—
	RTC Alarm Hour	—
	RTC Alarm Minute	—
RTC Alarm Second	—	
Plug and Play Setup	Plug and Play Aware O/S	Yes
	Clear NVRAM	No
	Reserved Memory Size	Disabled
	Reserved Memory Address	—
Peripheral Setup	AC'97 Audio Controller	Enabled
	OnBoard Serial PortA	3F8/COM1
	OnBoard Parallel Port	378
	Parallel Port Mode	ECP
	EPP Version	—
	Parallel Port IRQ	7
	Parallel Port DMA Channel	3
	Mouse PowerOn function	Disabled
Keyboard PowerOn function	Disabled	
Change Language Setting		—

\* [F5]キーを押して既定値に戻した場合、[S1/POS] に設定されます。

